北海学園大学
学報

北海学園大学学報
発行・編集　北海学園大学
札幌市豊平区旭町4丁目1番40号　〒062-8605
電話 011(841)1161
FAX 011(824)3141
URL http://hgu.jp/
gakuho@tyhr.hokkai-s-u.ac.jp
発行日（6月1日、9月1日、12月1日、3月15日）
購読料　1部80円　年間320円
制作・印刷　株式会社人力社

主な記事

経営学部・関哲人教授「ITがもたらす影響」―2面
退職教職員からメッセージ――3面
北海学園学術研究助成事業報告④ 経済学部 西村宣彦教授 4面
北海道顧問・元総務大臣 増田寛也氏 講演会 5面
学園人脈記 第3回 クリアトン・フューチャー・メディア株式会社 代表取締役 伊藤博之氏―6面
「ニュージーランド留学体験記④」河﨑秋子―7面
キャリア支援センター 就職活動 INFORMATION―8面

平成30年度　大学院 工学研究科 改組転換
電子情報生命工学専攻 博士（後期）課程設置

生命工学・電子工学・情報工学を融合した技術開発と人材育成をめざして

本学大学院は平成30年4月より、工学研究科電子情報生命工学専攻に博士（後期）課程を設置する。同専攻は、平成28年4月に電子情報工学専攻修士課程から電子情報生命工学専攻修士課程に改組転換した。今回はさらに発展させた改組で、今後はより高い学識と技術を有する人材育成をめざす。

工学部生命工学科長
髙橋（たかはし） 考太（こうた）

本学工学研究科では、電子情報工学専攻を発展的に改組、平成30年度から電子情報生命工学専攻博士（後期）課程を設置します。以下、この経緯についてご紹介します。

◆　◆　◆

専門と分野横断的知識の習得

身近にある家電製品を見ると、「人が操作し人の作業を補助する」旧来の製品から、「人と融合・相互作用し人の代わりに作業をする」製品へと、その特徴が変貌しつつあることに気づくことでしょう。個人を対象とする製品から個人と家族や社会をつなぐ製品へと進化する傾向があることも見逃せません。これらの技術的トレンドは、ヒト（生命工学）と機械（電子工学）がネットワーク（情報工学）により融合し始めている兆候といってよいと思います。

視点を世界に移すと、食料・資源の枯渇をはじめとする地球規模の環境問題が喫緊の課題となる一方で、我が国は超高齢化・人口減少社会に突入、安定的かつ持続的成長を可能とする産業構造への変革が急務となっています。

本学ではこのような技術的・社会的情勢に基づき、次世代基幹技術の一つであるバイオテクノロジーに着目、平成24年に工学部を改組、社会環境、建築、電子情報に続く4番目の学科として生命工学科を設置しました。

近年バイオ分野では、iPS細胞やゲノム編集等の先進技術と情報産業が有機的に連携することで、再生医療や個別最適医療の可能性を爆発的に拡げています。

本学の生命工学科は、バイオテクノロジーと情報技術が融合する未来をいち早く想定、発足当時からバイオ教育と並んで実践的な情報教育に取り組み、全国的にみてもユニークで先進的な人材を養成してきました。

本学の生命と情報の融合への取り組みは、電子と情報の融合を目指してきた電子情報工学専攻に、生命工学科教員が参加することで、平成28年の電子情報生命工学専攻修士課程の設置へと発展的に繋がっていきます。

◆　◆　◆

内閣府が掲げる科学技術イノベーション総合戦略でも重要技術として位置付けられる生命工学・電子工学・情報工学の3分野は、近年の技術的トレンドを発展させるために不可欠な分野です。ディープ・ラーニングの開発により新たな段階に到達した人工知能（AI）や、インターネットの普及に伴い国境を越えた多様な情報（ビックデータ）収集の利用が可能となった現在、生命体としてのヒトの特徴を理解し、人と機械のインターフェイスを考え、それらを先進の情報技術で繋いでゆく未来型産業の創出に資する高度技術者の育成が望まれています。

また、限りある資源に配慮した持続可能な社会の実現に向けても、特定分野の高い専門性を身につけるだけでは不十分であり、一貫した教育体制のもとで複数の関連分野の知識を横断的に身につけ、多様な価値観に裏付けされた豊かな発想力を持った人材を養成することが重要です。

以上のような要請から、電子情報生命工学専攻修士課程を終えた学生が、その学識と技術をさらに高めるための学び舎として、博士（後期）課程の設置が計画され、今回の改組に至りました。

平成30年度 入試状況

出願者数 昨年度上回る

平成30年度一般入学試験、大学入試センター試験利用入学試験I期、併設校推薦入試（北海高校・北海学園札幌高校）の合格発表が2月24日（土）に行われた。午前10時の本学発表会場には受験生や家族が訪れ、アメリカンフットボール部の学生たちによる胴上げや応援団によるエールがあり、歓喜に沸いた。

平成30年度入試の一般入試と大学入試センター試験利用入試（Ⅱ期を除く）の入試状況は表の通り。

一般入試の志願者は昨年より45名の増加、センター利用入試の志願者は56名の増加となった。文系学部は志願者増である一方、2部（夜間部）と工学部は減少。2部（夜間部）は隔年現象で一昨年4名、昨年55名、本年504名となった。工学部は全国的な志願者減少と類似しており、特に道内は北見工業大学の改組、千歳科学技術大学の公立化の検討などの影響があると思われる。

また、入学定員管理の厳格化が3年前から始まり、文部科学省定員に対する入学者の超過倍率が縮小され、その結果、合格者数を絞り込む傾向にある。今後、若年人口の急減期を迎える2018年度問題と、より厳しい北海道の18歳人口と大学入試志願者数の減少は、経済状況の厳しさ、国公立大学志向の強まり、受験校数の絞り込みがあり、次年度以降の志願動向に大きく影響がでると予想される。

今後、出前講義、オープンキャンパス、進学相談会など表した推薦入試と合わせ、平成30年度入試は厳しい状況の中でも順調に推移した。これから行われる大学入試センター試験利用入試Ⅱ期に期待するとともに、今後も多くの受験生が志望する大学であり続けたい。

アメリカンフットボール部が胴上げで合格者を祝う（2月24日）

平成30年度
一般入試・センター利用入試Ⅰ期 出願者数　（人）

部	学部	学科	一般入試	センター利用入試
1部	経済	経済	1,263	229
		地域経済		
	経営	経営	529	284
		経営情報	359	241
	法	法律	740	194
		政治		
	人文	日本文化	224	173
		英米文化	208	177
	工	社会環境工	56	89
		建築	120	134
		電子情報工	94	172
		生命工	57	143
	1部合計		3,650	1,836
2部	経済	経済	184	−
		地域経済		
	経営	経営	115	−
	法	法律	142	−
		政治		
	人文	日本文化	26	23
		英米文化	37	14
	2部合計		504	37
1・2部合計			4,154	1,873
総合計			6,027	

卒業生の皆さんへ

社会人としての第一歩

この春、本学を巣立っていかれる卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。大方の人にとってはこれが最後の卒業式になろうかと思います。皆さんは小学校、中学校、高等学校と、過去に3度（幼稚園の卒園式を含めると4度）の卒業式を経験されていますが、大学の卒業式はこれまでとは違います。今までは下級の学校を卒業後、数年後にまた上級の学校の卒業式がありましたが、大学の卒業式は――そのあと大学院に進学するか、他大学に再入学でもしない限り――それが最後となります。大学卒業後は通常、社会人としての歩みが始まりますので、大学の卒業式は英語ではしばしば〝graduation〟とは言わずに、「開始」「始まり」を意味する〝commencement〟という用語が充てられます。

ところで、学生と社会人の一番の違いはなんでしょうか。いろいろな見方は可能ですが、一つの見方では、モラトリアム（moratorium）の有無ということです。学生はモラトリアム状態にありますが、社会人はそうではありません。モラトリアムとは「債務の履行が延期される期間」、換言すれば、「支払い猶予」ないし「社会的義務の遂行が猶予される期間」のことです。学生はよし成人していたとしても、一般的には親（保護者）の庇護のもとにあり、社会的責任を直接問われることを免れています。しかし大学を卒業して一歩社会に歩み出ると、学生の頃の甘えは一切通用しません。例えば、学生の頃は寝坊して授業に遅れようと、自分の都合でサボろうと、ある程度は大目に見られていたでしょう。しかし社会人になってからは遅刻とか無断欠勤はご法度です。もちろん、すべての過失の法的責任は自分で取らなければなりません。

ご存知のように、北海学園大学のスクールモットーは「開拓精神／開拓者精神」ですが、これはしばしば二つの「じりつ」――自立と自律――をもって言い換えられます。あるいはアメリカの「フロンティア精神」を特徴づける「独立独行」（self-reliance）という概念を借用してもよいでしょう。いずれにせよ、モラトリアムの対極にあるのが自立／自律的な生き方です。〝commencement〟をもって始まる社会人生活は、「責任を負う自己」としての第一歩でもあります。今後のご活躍に期待しています。

【学長　安酸敏眞】

宇野理論と現代株式会社　法人企業四百年　ものがたり
河西勝（名誉教授（経済学部／大学院経済学研究科教授））著
株式会社論の展開を基軸に世界分析の方法的視座を検証。二次大戦以後を分析の対象とする正しい方法論と原論と段階論が内容上重大な難点を含むという「方法と内容のねじれ」にメスを入れる。
定価（本体二、七〇〇円＋税）
社会評論社

「それでも大学が必要」と言われるために
―実践教育と地方創生への戦略―　平岡祥孝（経済学部講師（非常勤））他編著
大平義隆（経営学部教授）・川村雅則（経済学部教授）・樽見弘紀（法学部教授）他共著
18歳人口の減少、地方の衰退など、現在の大学は顕著な変革の中に立たされている。いま大学に求められるものとは何か。「現在の大学教育における果敢な実践事例をもとに、今後の大学の役割を探る。
定価（本体二、六〇〇円＋税）
創成社

岩波講座 現代 第3巻　資本主義経済システムの展望
諸富徹編著／宮本章史（経済学部准教授）他共著
経済のグローバル化と一体に実物経済から分離した金融経済の優位性、あるいは市場や企業に対する国家のガバナンスのあり方など、現代社会の全体像を把握し、新たな知の基盤を築くための挑戦。
定価（本体三、四〇〇円＋税）
岩波書店

はじめての英語教育研究　押さえておきたいコツとポイント
浦野研（経営学部教授）他共著
英語教育研究を始めたい人のための入門書。研究テーマを決める「先行研究を探す」など、一連の研究のプロセスを具体例で解説し、基礎から体系的に学びたい大学生・院生や英語教員などに最適。
定価（本体二、四〇〇円＋税）
研究社

エピソードでわかる社会心理学　恋愛関係・友人関係から学ぶ
谷口淳一・相馬敏彦他編著／古谷嘉一郎（経営学部講師）他共著
日常的な恋愛や友人関係をはじめとする親密な関係に起こる〝あるあるエピソード〟を社会心理学の視点から分析・解説。楽しくエピソードを読みながら、社会心理学の基礎理論を深く学べる好著。
定価（本体二、一〇〇円＋税）
北樹出版

民法Ⅰ　総則［第4版］
松久三四彦（法務研究科教授）他共著
コンパクトながら民法を理解するための重要事項をほぼ網羅。一線の執筆陣による定評あるスタンダード・テキストを、2017年の民法改正を踏まえて内容をさらに補訂した最新版。
定価（本体一、八〇〇円＋税）
有斐閣Sシリーズ

肉弾
河﨑秋子（経済学部平成13年度卒・49期生）著
北海道のカルデラ地帯で孤立した青年が、熊や野犬と戦い、人間の生きる本能を覚醒させてゆく――。前作『颶風の王』で文学界を瞠目させた著者が、圧倒的なスケールで描く肉体と魂の成長物語。
定価（本体一、六〇〇円＋税）
角川書店

トピックス50

ITがもたらす影響

就職活動におけるエントリーシートの自動化を事例に考える

経営学部教授
関（せき） 哲人（のりひと）

今日、AIが注目されています。本稿では、AIないしITが人間や社会にもたらす影響を、就職活動におけるエントリーシートの自動化を例にお話しします。ここでは、AI（人工知能）とは人間が行う作業をコンピュータが代替するあるいは人間の思考をコンピュータが支援するもので、コンピュータプログラム、IT（情報技術）と考えていただきたいです。

就職活動における人事担当者は膨大な学生のエントリーシート（書類）に目を通し、次の選考に通過する学生を選別していくのですが、この選別をコンピュータで自動処理しようとする試みがあり、例えば、次の仕組みを有するプログラムが実際に提案されています。

1 判定するキーワードの抽出

過去のエントリーシートから、選考を通過した学生と通過していない学生のエントリーシートで用いられているキーワードを抽出する。

2 判定するキーワードに基づく判定

学生が実際に作成したエントリーシートの文中で、上記選考を通過した学生のみが用いていたキーワードが含まれた場合は加点、通過していない学生のみが用いていたキーワードが含まれている場合は減点する。

3 選考通過の判定

上記段階で合計得点がプラス10点以上であれば選考通過、マイナス5点以下であれば不合格、その中間の得点は保留し、担当者の判断に委ねる。

それでは、この仕組みを導入することでどのようなメリットが生まれるのでしょうか。企業側と学生側のメリットについて考えます。

▼企業側のメリット

1 エントリーシート選考作業の軽減

コンピュータにエントリーシートを判別させることにより、担当者の労力の軽減が見込まれます。よって、大量の応募に対応することが可能になります。さらには、書類選考に割いていた時間を面接に充てることも視野に入ります。

2 基準の明確化

上記キーワードの抽出により、明確な判断基準を生み出すことになります。書類選考後の面接などの選考において、面接官はこの判断基準にしたがって面接に臨むことが可能となります。経験や勘といったものに頼らなくてもよくなります。

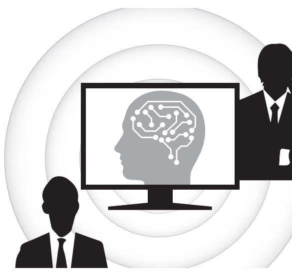
▼学生側のメリット

1 エントリーシート文字入力の軽減

この方式では、手書きではなくwebのフォームにテキストを入力する形式を前提とします。文字入力については軽減されます。文字入力が軽減されることで、エントリーシートの内容そのものをより深く考える時間に充てられることが期待されます。

2 採用基準の理解

ITによるエントリーシート判別で求められるキーワードは何か、これを応募側の学生が考えることで、その企業について理解を深めるきっかけになることも想定できます。



以上より、ITは作業の軽減にとどまらず、行動や思考を変化させる役割を持っていることをこの事例から垣間見ることができれば幸いです。ただし、本方式はエントリーシート作成の画一化・単純作業化をもたらすなどのデメリットがあることも付け加えます。

さて、これは企業と学生の関係での議論でした。この仕組みが普及した場合、企業の採用活動はどのように変容するのでしょうか。そもそも大量のエントリーシートを処理しなければならない社会的背景は何でしょうか。ITを取り巻く環境さらには社会について議論する余地が出てきます。この点で、ITは仕組みそのものにとどまらず、人や社会について考えさせるものであるとも言えます。

研究室の窓

人文学部教授
小松（こまつ） かおり

バナナから見える世界

―「当たり前」なことから人間を考える―

ウガンダで主食のバナナ餅の炊き上がりを音で判断する実習中。カバーはバナナの葉、音を聴いている道具は葉柄

初めてのアフリカで1年間住み込んだコンゴの村では、バナナが主食でした。青いうちに蒸し煮してよく叩いたバナナ餅です。世界中で生産されるバナナの約4割は料理して食べられていて、アフリカ、中南米、ニューギニアには、バナナを主食にしている人たちがけっこういます。

コンゴでは、バナナは毎年新しく開く焼畑で育てます。土さえよければ、ほとんど手をかけずに育ち、1年中収穫可能で、子株で勝手に増えて、なんと手抜きで便利な主食だろうと思いました。

ところが、東アフリカの高地では、園芸作物のように手間をかけて、100年近く同じ畑で化学肥料もなしにバナナを育て、王国を作り上げた地域があることを知って驚きました。同じ作物が、全く違う扱い方をされ、全く異なる文化を支えているのです。

起源地である東南アジアやニューギニアから世界中に拡がる過程で、どのように地域ごとに異なる人間との関係を深めてきたのか、バナナから人間と作物の関係を考える視点が得られるのではないかと考えて、世界中のバナナ生産地を訪ねる調査を進めています。バナナの作り方・食べ方・種類は世界中でほんとうに多様です。実を食べるだけでなく、葉、葉柄、花、さまざまな部位が食べられたり利用されたりします。ひとつの村に数十種類のバナナがあることも珍しくありません。

一方で、わたしたちが食べるバナナは、大企業が経営するプランテーションで栽培されていて、ほとんどがキャベンディッシュというひとつの品種で、作っている農民はあまり食べません。

このように、作る人と食べる人が完全に別れた農業も現代の農の一面です。バナナは、地元密着型作物と、世界商品というふたつの顔を持った作物で、人間と作物の全く異なる関係性を見せてくれます。

バナナに限らず、身の回りの「当たり前に見えること」から人間の営みについて考えてみるのが、人類学の面白さです。みなさんも、自分の「バナナ」を手に入れてみませんか。【生態人類学】

教育振興会

留学生4人に奨学金給付

教育振興会では、昨年度につづき今年度も多くの皆様から、留学生への支援を目的にご寄付をいただきました。これにより在籍する留学生から4名を厳正に選考し、平成29年12月20日に学長（教育振興会会長）より1人当たり10万円の奨学金（奨学金C）を支給しました。

後列左側から、郭宗明さん、孫福浩さん、チャン ホアン アンさん、蘇世娟さん

▼奨学金受給者

経営学研究科修士課程1年 蘇（ソ）世娟（セイケン）さん／経営学部経営学科4年 孫（ソン）福浩（フクコウ）さん／経営学部経営学科1年 チャン ホアン アンさん／工学部生命工学科1年 郭（グオ）宗明（ソンミン）さん

豊陵会寄贈絵画④　工学部図書室展示

1996年度道展出品（水彩60号）

『雪晴』　成田一男

《プロフィール》
1927年北海道長沼町生まれ。元札幌市・小学校教諭。北海道美術協会（道展）会員、社団法人日本水彩画会。1949年第24回道展初入選「静物」、1953年第41回日本水彩展初入選「家裏」、1979年第54回道展会友「睡蓮の池」、1988年第76回日本水彩展会友「北大農場」、1995年第70回道展会員「雪蛍」「早春」「雪の時計台」「リラの花咲く頃」。

平成30年

新年交礼会

学校法人北海学園主催による新年交礼会が1月9日、札幌ガーデンパレスにて開催された。今年表彰された永年勤続者は次のとおり。

年頭の挨拶を述べる森本正夫理事長

永年勤続・北海学園大学

▼40年勤続 〈教員〉佐々木博明（工）、〈職員〉笹川雅司（法）、白石美也子（工）

▼30年勤続 〈教員〉石井晴子（経営）

▼20年勤続 〈教員〉福田都代（経済）、水野邦彦（経済）、石井耕（経営）、鈴木美佐子（法）、テレングト アイトル（人文）、上浦正樹（工）、越前谷博（工）、〈職員〉堀内彰（事務部）、中本一康（学習支援システム）、佐々木啓明（会計）

▼10年勤続 〈教員〉内田和浩（経済）、佐藤信（経済）、板垣暁（経済）、関哲人（経営）、中根研一（法）、内山敏和（法）、田中綾（人文）、速水孝夫（工）、鈴木聡士（工）、〈職員〉土島直也（庶務）、白川貴規（学習支援システム）

永年勤続・北海商科大学

▼30年勤続 〈教員〉元山啓

▼10年勤続 〈教員〉堂徳将人、〈職員〉一条昌弘

永年勤続・北海高等学校

▼30年勤続 〈教員〉松本征司

▼20年勤続 〈教員〉平川敦

▼10年勤続 〈教員〉本田真里子、長谷川諭、三澤佑介、齋藤順道、〈職員〉坂口浩治

永年勤続・北海学園札幌高等学校

▼30年勤続 〈教員〉齋藤一誠

▼20年勤続 〈教員〉佐藤元幸、石川尚子、〈職員〉木村剛

▼10年勤続 〈職員〉倉内哲

永年勤続・法人事務局

▼30年勤続 工藤誉伸

教育研究交流会

高校は大学教育に何を求め、大学は高校教育に何を求めているか？

～北海学園4校の協力関係を今一度考える～

学校法人北海学園の4校（北海学園大学、北海商科大学、北海高校、北海学園札幌高校）による教育研究交流会が昨年12月16日、本学D31番教室で行われた。高校や大学を取り巻く環境が大きく変化しているなか、高校教育と大学教育の連携強化に向けて広い視野で考えようというもので、多くの教職員が参加した。

左から、北海学園大学教育開発運営委員会委員長 岡崎敦男工学部教授、北海学園大学 元木入試部長、北海商科大学 堂徳入試・広報センター長、北海高校 渡邉進路指導副部長、北海学園札幌高校 天沼進路指導部長

北海学園4校の主要マーケットである札幌市の15歳～19歳人口は、2015年からの10年間で1万人以上減少し、2025年からの10年間ではさらに約1万5千人が減少するといわれている（社人研人口推計）。このような状況をふまえ、4校からそれぞれ報告。その後の座談会では活発な意見交換が行われた。報告内容は次の通り。

▼報告1「高大接続改革で学力評価はどれほど変われるのか」北海学園大学 入試部長 元木邦俊・工学部教授

▼報告2「今一度考える～今次の教育改革と北海学園4校の協力」北海商科大学 入試・広報センター長 堂徳将人教授

▼報告3「北海高校2014年度入学生 進路指導実践～高大連携を見据えて～」北海高校 進路指導副部長 渡邉雅利

▼報告4「北海学園札幌高校における大学受験劇場」北海学園札幌高校 進路指導部長 天沼和哉

訃報

本学名誉教授の吉田事（よしだおさむ）先生（87歳）が平成30年1月3日、本学法学部教授の川谷茂樹（かわたにしげき）先生（49歳）が平成30年2月12日、本学学生部学生課の吉村武彦（よしむらたけひこ）課長（58歳）が平成30年2月17日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

【吉田事先生】昭和30年北海道大学文学部文学科卒業、昭和30年北海高等学校教諭、昭和51年本学教養部助教授、昭和56年同教授、平成10年経済学部教授（英語講読など担当）、平成11年退職。

【川谷茂樹先生】平成3年京都大学文学部哲学専攻卒業、平成10年九州大学大学院文学研究科哲学・哲学史専攻修士課程修了、平成16年同博士課程単位取得満期退学、平成4年北九州市役所事務吏員、平成17年本学法学部講師、平成18年同助教授、平成19年同准教授、平成22年同教授（倫理学I・IIなど担当）。

【吉村武彦課長】昭和58年札幌商科大学商学部商学科経営学コース卒業、昭和58年札幌通運株式会社、平成3年株式会社ソフィア中村チェーン、平成5年本学経済学部主任、平成10年共通教育・研究センター主任、平成17年学生部学生課係長、平成23年就職部就職課長、平成24年キャリア支援センター事務長（部署名・職名変更）、平成28年学生部学生課長。

退職教職員からメッセージ

経済学部教授（前学長）
木村和範（きむらかずのり）

建学精神で更なる進化を

学校法人北海学園（以下「学園」）の一翼を担う本学は、「北海道で初めての4年制私立大学」から「北海道を代表する私立大学」を経て、「北海道を代表する大学」へと成長しました。これは、1950年の創基以来、学園、大学、在学生、卒業生などが、建学精神（「開拓者精神」）の担い手として、地道に努力した必然的結果です。本学の発展という二大事業に、2期6年間、学長として参画できたことはこの上ない幸せであり、栄誉でもあります。在職43年の間、多くの方々からのお力添えを頂き、統計学徒として満職を迎えることができました。心よりお礼申し上げますとともに、本学の更なる進化を祈念します。

【略歴】昭和45年北海道大学経済学部卒業、昭和50年北海道大学大学院経済学研究科経済政策専攻博士課程単位取得満期退学、平成15年経済学博士（九州大学）、昭和50年本学経済学部講師、昭和51年助教授、昭和61年教授（経済統計学など担当）、大学院経済学研究科修士課程教授（経済統計学特殊講義など担当）、平成7年同博士（後期）課程教授（統計学特殊研究など担当）、平成11年経済学部長、平成15年経済学研究科長、平成23年4月～平成29年3月学長（任期満了）、平成29年4月本学教授（経済学部、経済学研究科）

【著書】『統計的推論とその応用』、『標本調査法の生成と展開』、『ジニ係数の形成』、『ジニの統計理論』、『格差は「見かけ上」か』など

経済学部講師（図書館学課程）
菅原英一（すがわらえいいち）

本学に思いをはせて

図書館学課程の専任教員を終えようとしている今、心にわきあがるのは感謝の気持ちである。第一に、大学図書館員として培った経験を大学教育に生かす場を与えていただいたこと。二つ目には、私自身本学の図書館学課程の出身者であり、そのことによって受けた恩恵に対する恩返しが多少なりとも出来たかな、と思いたいということである。

時代も大学も激しく動いているなかで、そのことを意識しつつ、一緒に図書館学を学ぶことができた学生諸君には充実した将来が待ち受けていることを祈念する。

ありがとうございました。

【略歴】昭和48年北海道教育大学札幌分校卒業（教育学士）、平成21年本学経済学部講師（図書館情報資源概論、情報サービス演習Ⅰなど担当）

【主な著書・論文】『北のアンティクアリアン：札幌古書店の足跡』（共著）、論文：「図書館論の基底」、「図書館目録の周辺」

経営学部教授
小島康次（こじまやすじ）

研究交流で知的刺激

平成元年に本学に赴任し教職科目を担当して、所属教授会は、今はなき教養部でした。教職課程で教師を目指す、やる気に満ちた学生さんを相手の授業やゼミは本当に楽しかった。とりわけ、教育実習の準備研修を目的とした合宿は思い出の多い行事でした。教養部の教員は専門が多岐にわたっていて、個性的な方が多く、研究交流では新鮮な知的刺激を受けました。芸術論ご担当のある先輩教員が教授会の席上、井伏鱒二の「サヨナラだけが人生だ」（勧酒）を朗々と諳んじたのは忘れ難い思い出です。丁度、29年勤めたことになり、あと一年で30年になったのに。最後の懇親会で「勧酒」を誦してみようか。照れ臭いので、漢詩を中国語で…。

【略歴】昭和54年北海道大学大学院教育学研究科修士課程修了（教育学修士）、昭和58年同大学大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学、同年札幌大学女子短期大学部講師、昭和60年同助教授、平成元年本学教養部助教授、平成4年教授、平成10年経済学部教授、平成14年大学院経営学研究科修士課程担当（発達心理学特殊講義など担当）、平成16年経営学部教授（認知心理学など担当）、平成18年博士（後期）課程担当（発達心理学特殊研究など担当）

【主な著書・論文】『新発達心理学ハンドブック』（共著）、『創造性を育てる教育とマネジメント』（共著）、『質的心理学ハンドブック』（共著）

経営学部教授
石井耕（いしいこう）

北海学園大学での思い出 ―社会人院生―

最も思い出のこることは、経営学研究科での社会人院生の教育である。私自身が会社に17年間勤めた経験から、社会人に対して再度大学院で教育をすることに興味があった。2000年から経営学修士課程の設置を予定しているということで、1998年に転職して、北海学園大学に着任したのである。その後、2002年から博士課程設置、2003年から経営学部設置）修士課程の一期生約10名からはじまり、私自身が修論指導した院生20名弱、講義を受講した院生100名強に及ぶ。その大半が社会人院生であり、一部中国人留学生、学部から入学した院生はごく僅かである。当初から社会人院生、しかも勤務を持つ院生中心で進めていくことは、想定されていた。地下鉄による通学、学部二部同等の授業料の安さという絶好の条件が揃っていたからである。その上で、平日夜間6・7講開講、土曜開講ということで、勤務を持つ院生も通いやすくしたことが大きい。さらには、入学試験をしっかり行い、修士論文の提出も義務づけ、そのためのサポート体制も整備した。修士論文の中間報告会を二度実施し、徐々に内容を高めていくプロセスも重要であった。勤務を持つ院生にとって厳しいこともあったと思うが、それを乗り越える喜びもあったと思う。

【略歴】昭和50年北海道大学経済学部卒業、同年㈱三菱総合研究所、平成4年北海道教育大学函館校助教授、平成9年博士（経営学）（北海道大学）、平成10年本学経営学部教授（企業行動論特殊講義など担当）、平成12年大学院経営学研究科修士課程担当（企業行動論特殊講義など担当）、平成14年博士（後期）課程担当（企業行動論特殊研究など担当）

【主な著書・論文】『企業行動論 第3版』、『日本企業の能力主義人事政策』、『リーディングス日本の企業システム 第Ⅱ期』第4巻、『現代日本企業の経営者』

法学部教授
中村敏子（なかむらとしこ）

本学に望むこと

大学の教師がなすべき仕事として、教育は勿論ですが、やはり研究も重要なことだと思います。研究の成果が教育に反映されていくことが、大学教育の望ましい形だといえるでしょう。そのためには、研究のための時間が確保され、在外研修の機会が保障されるなどが大切ですが、本学の場合、それが可能だったことは、大変ありがたいことだったと思います。

しかし最近では、大学に対するさまざまな改革要求があることで、それらに対応しなければならない教員は、研究時間の確保が難しくなりつつあるようです。これまでの本学の良い研究環境を保持しつつ教育の改善を図るためには、本当に必要な改革だけを選択するという判断も必要なのではないでしょうか。

【略歴】昭和50年東京大学法学部卒（法学士）、昭和60年北海道大学大学院法学研究科公法専攻修士課程修了（法学修士）、昭和63年同博士課程単位取得満期退学、平成5年法学博士（北海道大学）、昭和50年東京都職員、昭和63年北海道大学法学部助手、平成6年本学教養部助教授、平成8年教授（現代政治理論など担当）、平成11年大学院法学研究科修士課程担当（政治思想史特論など担当）、平成16年博士（後期）課程担当（政治思想史特殊研究など担当）

【主な著書・論文】『福沢諭吉文明と社会構想』、『福沢諭吉家族論集』、『トマス・ホッブズの母権論』

法学部教授
中元啓司（なかもとひろし）

地域とともに

赴任して最初に肝を冷やしたのは、2部の試験監督時に、試験会場の電源が落ち真っ暗で続行不可になったこと。予備日にも、再び電源が落ち試験続行不可。学生は初回の怒りはなく、もう諦めの境地。3度目以降は想像してください。立派な校舎になった今では想像もできない。その後、教育実習生の激励にある高校の最寄り駅に着いたが、夏季休暇中はバスがなく時刻表とにらめっこしていたら、通りがかりの軽トラックの方が背広姿の若者を不便に思ったのか、学校まで送迎してくださった。親戚の子が「学園さん」に通学しているとのこと。道民からこの愛称をいただいている大学に長い間勤務し、毎年、二十四の瞳以上の瞳と時間を共有できたことはこの上なく幸せだった。

【略歴】昭和51年中央大学大学院法学研究科修士課程修了（法学修士）、昭和56年同博士課程単位取得満期退学、昭和56年中央大学法学部講師、昭和58年助教授、平成2年教授（商法など担当）および同大学院法学研究科修士課程担当（有価証券法特論など担当）、平成10年同博士（後期）課程担当（商法特殊研究など担当）

【主な著書・論文】論文：「ヤフー事件・iDCF事件の検討―取締役の法令遵守義務と法人税法132条の2―（北海学園大学法学部50周年記念論文集：次世代への挑戦・法学部半世紀の伝統を糧に―）」、「海上物品運送契約と運送契約の当事者（海法大系・白本海法会創立百周年祝賀・商事法務研究会）」

法学部講師（教職課程）
谷川信幸（たにかわのぶゆき）

学生たちの活躍に期待

高校を定年退職後、教職指導室に勤務し、授業の他に学生たちの相談や指導に当たってきました。教職課程を履修していない学生も教えましたが、みんな真面目で、特に教職履修者は、教員という目標をきちんと持ち、それを実現すべく、非常に努力しています。

教員採用は厳しい状況が続いていますが、正規の教員として、一人でも多く採用されるように、教職課程の先生方と一緒に取り組んできました。全道の学校で活躍している先輩たちに、ぜひ続いてほしいと思います。

本学に勤務して、充実した7年間を過ごすことができました。本学がこれまで以上に発展することを願っています。

【略歴】昭和48年明治大学文学部史学地理学科日本史専攻卒業、昭和51年同大学院文学研究科史学専攻日本史専修修士課程修了（文学修士）、昭和51年北海道公立高等学校教諭、平成13年同教頭、平成19年同校長、平成23年北海学園大学法学部講師（地理歴史科教育法Ⅰ・Ⅱ、日本史など担当）

【主な著書・論文】『石清水八幡宮寺並極楽寺恒例仏神事惣次第』（共著）、研究報告：「教職課程履修者の4年間の取り組みの実態と意識について」（共著）、「教職課程履修者のキャリア意識の形成について」（共著）

人文学部教授
本城誠二（ほんじょうせいじ）

北海学園と私

一九八〇年に教養部の英語講師として赴任して三八年がたってしまいました。教養部の解体を受けて一九九八年から二〇〇〇年まで共通教育研究部に、その後二〇〇一年から二〇〇六年まで経済学部に、教育改革の最後のステップとして二〇〇七年からは人文学部に移りました。前半は比較的のんびりと過ごし、後半は時代の大学をめぐる激しい変化に揺さぶられました。一方でもっと主体的に変化に対して取り組むべきだったという反省もあります。いずれにしても北海学園大学で長いあいだ教職員のみなさんと気持ちよく仕事をさせて頂いて本当に感謝しています。ありがとうございました。

【略歴】昭和54年北海道大学大学院文学研究科英米文学専攻修士課程修了（文学修士）、昭和55年本学教養部講師、平成10年共通教育研究センター助教授、平成13年経済学部教授、平成19年人文学部教授（北米文化論、専門演習など担当）

【主な著書・論文】『Crossing Borders―ジャズノワール/アメリカ文化』（単著）、『ポストモダン都市ニューヨーク』（共著）、論文：「Black Face, White Skin―『ジャズシンガー』における人種の政治学」（単著）

工学部教授
佐々木博明（ささきひろあき）

時代の継承

昭和五三年からあっという間の四〇年間であった。その間、工学部は学科を増設し、学生数も校舎も増加した。嬉しいことに卒業生が、研究者となり工学部に戻る人も増えてきている。さらに、教え子が企業から開発テーマを持ち込み、実験をする機会も多くなった。これも実験施設や計測機器が充実したためであろう。そして卒業生が、「あの時の、面白くない講義が今は役立っている」と言われた時は教師冥利に尽きる。これは私にとっても同じ事で、「目が覚めると授業が終わっていたり、推薦を受けた企業を辞退したり」と私の恩師に御面倒をかけた事を今鮮明に思い出す。

学生諸君よ、私もこの様に歩んできた。気にせず、それぞれの人生を思うままに生き抜いて下さい。

【略歴】昭和51年3月東洋大学大学院工学研究科修士課程修了。住宅メーカー勤務後昭和53年4月本学工学部専任講師、58年同助教授、平成2年同教授。（建築環境基礎、建築環境計画Ⅰ等を担当、大学院工学研究科では温熱環境計画特論等を担当）

【主な著書・論文】共著：『積雪寒冷型アトリウムの計画と設計』、単著：『北海道の木造戸建住宅における熱的性能と暖房エネルギーの動向』、共著：『住宅用ヒートポンプの性能に関する調査研究』等、寒冷地住宅の温熱環境と暖房・換気に関する研究・調査。

工学部教授
武市靖（たけいちきよし）

大きく羽ばたいて下さい

昭和54年、本学に赴任してから39年間、本学の教職員・学生にめぐまれ楽しく充実した教員生活を送ることができました。心から感謝いたします。私は大学卒業後、JICA関連の発展途上国技術援助業務などを主としたコンサルタント会社に勤め、パプアニューギニア、アフリカのリベリアなどで道路調査・計画などに従事しました。6年後、仕事の世界は、密林や草原地帯における熱帯の自然・現地人とのフィールドワークから、大学での学生教育と寒冷地舗装の研究へと大きく変わりました。人生の大きなターニングポイントでした。当初、実務経験をたよりに試行錯誤を繰り返しながらも、教育・研究の重みとやりがいを肌で感じ今日に至りました。学生の皆さん、多様性が求められている現在、ダーウィンの「生き残る種とは、…変化に最もよく適応したものである」の言葉を胸に秘め、大きく羽ばたいて下さい。

【略歴】昭和48年北海道大学大学院工学研究科土木工学専攻修士課程修了、平成5年博士（工学、北海道大学）、昭和48年日本工営㈱入社、昭和54年本学工学部講師、昭和57年同助教授、平成元年同教授（道路工学、寒冷地舗装工学など担当）、同大学院博士後期課程担当（寒冷地道路工学特別講義Ⅰ・Ⅱなど担当）

【主な著書・論文】『道路工学』、『舗装工学ライブラリー6 積雪寒冷地の舗装』、論文：「土木学会論文集―路面テクスチャと湿潤・凍結路面における走行安全性との関係に関する研究」、「凍結路面のすべり抵抗特性および凍結抑制効果の定量的評価方法に関する研究」

工学部教授
杉村徹（すぎむらとおる）

コンピュータは身近に

着任して間もなく、今のB実習室の位置に、パソコン50台ほどを3室に配置して「教育用コンピュータ実習室」がスタートしました。当時の経済学部と教養部で時間帯を工面しながらの授業展開で、文字通りの共同利用。それから37年間。スマートフォンというコンピュータを持ち歩く時代になりました。感無量。

本学ではたくさんの人にお世話になりました。感謝申し上げるとともに、皆さんの健康とご活躍をお祈りします。

【略歴】昭和51年北海道大学大学院工学研究科情報数理専攻修士課程修了、昭和52年釧路工業高等専門学校助手、昭和53年同講師、昭和56年本学教養部講師、昭和59年同助教授、平成10年本学工学部教授（コンピュータ科学、数学関係科目を担当）

【主な著書・論文】『オートマトンの位相幾何学的表現について』、『ロシア語における単文字と文長分析（1）』（共著）

工学部教授
買買提力提甫（まいまいてぃりてぃふ）

学生諸君、世界へ翼を

本学における教育研究生活15年間中、教職員・学生に恵まれ、充実した楽しい時を過ごすことができ、心から深く感謝しています。学生諸君に一言、グローバル化につれ、競争はますます激しくなり、先進国にしろ、新興国にしろ、若者が専門知識以外に3カ国語、4カ国語をマスターすることが一般化になっています。まさに鬼に金棒。北海学園大学は英語以外に5カ国語が設置されており、学生諸君はこの恵まれた環境を大切に、有効に利用して、専門と英語以外に、もう1カ国語、2カ国語に挑戦して自分を強くして欲しい。素晴らしい環境に陶酔せず、開拓精神を忘れず、Catch the world, Catch the future. 同時に、北海学園大学はいつも諸君の強大な後ろ盾としてあり続けるように願っています。

【略歴】昭和50年中国新疆大学機械学部機械製造及び工芸設備自動化学科卒業、同大学講師（工作機械設計、設備自動化を担当）、昭和55年中国大連理工大学機械学部客員研究員、平成元年本学大学院経済学研究科経済政策専攻修士課程修了、平成3年九州大学経済学部経済学研究科研究生、平成5年北海学園北見大学商学部、北海学園北見短期大学経営学科講師（ロシア語、中国語、日本語を担当）、平成11年同助教授、平成11年学校法人北海学園北東アジア研究交流センター研究員、平成14年社団法人北太平洋地域研究センター客員研究員、平成15年本学工学部助教授、平成17年同教授（中国語、国際寒地都市論を担当）

【主な著書・論文】『中国の中小企業改革の現状と課題』（共著）、『ドイツ、フランス、中国、ロシアとその周辺地域の言語と文化』（共著）、論文：「ロシア語の助数詞について」、翻訳：日本国鉱研株式会社『KOKEN 車載式鑽機』使用説明書

工学部教授
吉田文夫（よしだふみお）

学園大学と学生への感謝

本学工学部へ着任後、およそ30年が経過し、平成30年3月で停年退職を迎えました。いまでも着任時のことを思い起こしては、長かったような、短かったような奇妙な時間の流れを感じます。

これまでに様々な事でお世話になった諸先生、事務職員の方々や拙い講義を聞いてくれた学生には感謝以外の言葉もありません。講義や卒研指導での教職の役割をどの程度達成できたかは分かりませんが、卒業学生の社会での活躍に多少なりとも貢献できたのであれば幸いです。ときには、学生にはああだこうだと言いつつも、逆に教員として育ててもらったという思いもあります。また長年にわたり好きな研究も継続できたことはとても幸せです。

あらためて、北海学園大学のますますの発展と学生たちの活躍を願う次第です。

【略歴】昭和54年北海道大学大学院工学研究科応用物理学専攻博士課程修了（工学博士）、昭和55年北海道大学工学部助手、昭和57年日立マイクロコンピュータエンジニアリング㈱、昭和61年本学工学部土木工学科助教授、平成3年工学部社会環境工学科（旧土木工学科）教授、平成5年大学院工学研究科建設工学専攻（土木系）修士課程担当教授、平成24年工学部生命工学科教授、平成28年大学院工学研究科電子生命情報工学専攻修士課程担当教授

【主な著書・論文】論文［共著］：Computer-Simulated Scattering of Lattice Solitons from Impurity at Free Boundary, Statistical Mechanics of the Toda Lattice based on Soliton Dynamics, Exact Solutions of a Difference-Difference Nonliner Equation with the mKdV Type Soliton

工学部准教授
切替英雄（きりかえひでお）

アイヌ語学・言語学とともに

アイヌ語学や言語学にいささかなりとも興味を引く諸君に出会え、私の考えていることが伝えられたのは、大きな喜びで幸せなことでした。講義では私が考え抜いたことばかりを話しました。個々の知識を与えるつもりはなく、むしろアイヌ語学・言語学の考え方を身に付けてほしいと、ほとんどそれだけに意を用いました。諸君には、この方面になじみがないのですから難しかったと思います。そもそも言葉は使うものであって、考察の対象ではありませんからね。

多少とも言葉そのものを自力で考察できるようになり、自分が生きている言語空間、つまり諸君が編みつつある言葉のネットワークがより清々しいものになったと信じています。

【略歴】昭和58年文学修士（北海道大学）、昭和63年北海道大学大学院文学研究科言語学専攻博士課程単位取得満期退学、昭和63年北海道大学助手（文学部言語学講座）、平成元年鳥取大学助教授（教養部日本語・日本事情）、平成4年本学工学部准教授（アイヌの言語と文化など担当）

【主な著書・論文】『アイヌ神謡集辞典』、論文：「アイヌ語の名詞句の構造と合成名詞」、「アイヌ語の1を表す数詞」

法学部事務長
笹川雅司（ささがわまさし）

感謝、感謝そして期待

昭和53年4月に北海学園に入職以来、40年が経過し3月で停年退職を迎えます。本部事務局総務課を皮切りに7部署を回りました。この間多くの教職員と出会い、同僚の支えにより職務に邁進することができましたこと感謝に堪えません。また多くの学生と接する機会にも恵まれ、苦労と喜びを分かち合えた経験が今では自身の財産となっています。

大学は、社会を取り巻く環境の変化や社会的要請に即応することが求められます。時流を捉え先鞭をつける体制を整え、幾度と押し寄せる荒波を創意工夫で乗り切ってほしいと願っています。今後も北海道私学の雄として君臨し続けることを望んでやみません。最後に、皆様方のご厚情に感謝申し上げますと共に、益々のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

【略歴】昭和53年本学経済学部経済学科卒業、昭和53年本学事務局書記、昭和53年経済学部書記、昭和61年教養部書記、平成4年教養部主任、平成10年経済学部主任、平成14年事務部庶務課係長、平成20年教務センター事務長、平成23年法学部・法学研究科・法務研究科事務長

北海学園学術研究助成事業報告 ④

研究課題

経済疲弊地域の地方財政の現状と課題

経済学部教授　西村（にしむら） 宣彦（のぶひこ）

兵庫県尼崎市生まれ。京都大学経済学部卒、京都大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。経済学修士。平成15年より本学経済学部講師を経て現職。専門は地方財政論。研究テーマは、地方自治体の財政問題および地域のサステイナビリティに関する研究。平成27年度北海学園学術研究助成を受ける。

資本主義経済は企業・産業の成長と衰退のダイナミズムを不可避的に伴うものですが、その影響が人や地域にどのような形で現れるかは、制度やルールのあり方に左右されます。北海道の旧産炭地域は1960年代以降、基幹産業だった石炭産業の衰退・消滅に直面し、人口の急減に直面しながら、新たな産業の創出に取り組んでいますが、疲弊した地域の建て直しは容易なことではありません。2006年には夕張市が歳入の落ち込みや行政主導の観光事業の赤字の累積などで財政的に行き詰まり、日本の地方自治史上類を見ない巨額の赤字を抱えて、2007年3月に財政再建団体になりました。

夕張市清水沢地区のズリ山から町を一望

財政再建と地域再生の両立を目指して

筆者は2006年秋以降、当初は赤字の累積過程を解明するため、その後は地域の再生に取り組む市民を応援しつつ、前例のない緊縮財政が地域に与える影響を見極めながら、日本の自治体破たん法制のあり方を探究すべく、夕張市に通いました。2015年秋には、市が「財政破たん10年」の節目を見据えて第3者委員会を設置し、委員を拝命したことから、長期の緊縮財政が地域や行政、市民の意識や生活に及ぼしてきた影響について、公式に検証する機会を得ました。そして「財政再建は着実に進んでいるが、それ以上に地域の疲弊も進んでいる」という検証結果を踏まえて、「10年の節目で大幅な緊縮緩和を行い、子育て支援の充実を柱に、地域再生に本格的に取り組めるようにすることで、市民や市職員の希望と誇りの再生を目指す」という方向で、財政再生計画の全面改定を提言し、2017年3月に総務大臣の同意を得て実現に至りました。

道徳論／法律論的な「緊縮主義の罠」から脱却し、「緊縮財政と経済収縮の悪循環」に歯止めをかける一手を打てたのは喜ばしいことですが、この10年で疲弊が進んだ地域の再生にはまだまだ課題が多く、今後も推移を見守っていきたいと思います。

今回、夕張市で緊縮緩和が実現した背景の一つに、国のマクロ経済政策が、財政破たん当時の緊縮志向の小泉構造改革路線から、経済成長とリフレを通じた財政再建を目指すアベノミクスに転換していたことが挙げられます。国も1000兆円を超える長期債務を抱えていますが、国にまだ余力があったからこそ、夕張市の緊縮緩和を容認できたとも言えます。

しかし、もし国の財政余力が全くなくなったら、国自体も財政破たんしたら、地方自治・財政はどうなるのでしょうか？ 今回の学術研究助成では、夕張市の調査に加えて、2010年に債務危機が発生し、国際金融機関の支援融資と引き替えに、厳しい緊縮財政を強いられているギリシャで調査を行いました。在アテネ日本大使館や2つの自治体（サラミナ市、ペラマ市）などでヒアリングを行い、自治体職員の給与削減や行政サービスの縮小など、緊縮財政の影響について両市の市長から貴重な話を伺うことができました。ギリシャはユーロ加盟国で独自の金融政策を打てないなど、日本と単純比較はできませんが、今後も定期的に海外調査に赴き、海外事情にも目を向けていきたいと思います。

「幸福の黄色いハンカチ広場」のハンカチ交換作業

ギリシャの首都アテネの路上マーケット

工学部教授　上浦（かみうら） 正樹（まさき）

未来展望

北海道の交通ネットワークの展望

成熟した日本では、高齢化社会を迎え、人口減少、高齢化、過疎化問題の対策が急がれている。特に、北海道では、札幌圏の人口が毎年増加しているものの、これ以外の地方都市の人口はかなりの地域で減少しつつある。

また、都市間の高速道路・高規格道路の整備が進み、利用者の選択の幅が広り、鉄道利用者の減となって現在に至っている。

そこでJR北海道では「当社単独では維持困難な線区」や民営化で廃止の基準となった1日あたりに輸送密度2000人を持たない線区を明らかにした。これにより道をはじめ沿線自治体で、それぞれの地域の将来を見据えた交通ネットワークのあり方について議論が進んでいる。

そこには地域ごとの事情があり、鉄道が担ってきた地域の足を路線バス、コミュニティバス、デマンド交通などへの転換が可能かなどの論点や、鉄道を地域で確保する第3セクター化や鉄道資産と運行の経営主体を分離する上下分離案など様々な視点での議論がなされている。

1987年、国鉄からJRへ民営化するに際し、持続可能な鉄道会社にするために一部の線区を廃止せざるを得ないこととなったが、北海道における鉄道網の骨格となる路線の考え方では14の全支庁のある鉄道駅の路線を存続することとした。

それから30年を経て、江差支庁のある江差線はバスに転換し、留萌支庁のある留萌本線も廃止案が検討され、さらに1日あたりに輸送密度2000人を持たない線区にある支庁は全体の半数を占めることとなった。

以上の経緯を見ると、今までの民営化に際して確立された路線の考え方には限界がある。よって新たに将来につながる北海道の交通ネットワークを前提として、鉄道の果たす役割による路線の骨格に対する考え方が必要であろう。その視点としては、北海道新幹線に接続する旅客に対応する基幹となる旅客輸送、北海道の農産物を輸送する鉄道貨物輸送、観光需要に見合った鉄道輸送などがあると考える。

【専門：鉄道工学】

中国社会科学院と特別研究会

欧米・中国・日本の解釈学について発表・討論

特別研究会終了後の記念撮影において

昨年11月13日、本学6号館において中国社会科学院と、中国パブリック解釈学についての特別研究会が開催された。

第一部は、中国社会科学院副院長・張江教授による研究発表の後、安酸敏眞学長がヨーロッパにおける解釈学の伝統と変容についての研究発表を行った。

第二部は、中国社会科学院の4名の教授陣と、本学人文学部・テレングト アイトル教授、同・小柳敦史準教授が加わり、欧米・中国・日本をめぐる解釈学の問題と展望について、活発なディスカッションが行われた。

私立大学情報教育協会主催

北海道地域事業活動報告交流会

去る平成29年12月19日、昨年に引き続き、本学のコンピュータ実習室Bにおいて、私立大学情報教育協会主催の北海道地域事業活動報告交流会が開催されました。

当日は、同協会の向殿会長の開会の挨拶、本学の安酸学長の開催校挨拶を皮切りに、同協会の井端事務局長から少子高齢化、グローバル化、AI、IoT、ビッグデータ等の第4次産業革命による産業構造、就業構造の転換が進行する中、10年後、20年後を見越した成長戦略として様々なイノベーションが期待される時代に対応できる人材育成にどう対応するべきかについて〝大学教育の質向上に向けた課題とICTの活用〟という視点から数多くの提言がされました。

私立大学情報教育協会・井端正臣事務局長の発表

具体的には3つのポリシーに基づく教育の実質化、大学の組織改革、学力の3要素の深化、教育力の向上等、様々な課題に対してどのようにICTを活用し、学生の主体性を引き出していくのかについて、〝私立大学教員の授業改善白書〟の結果や先行する他大学の事例等を織り交ぜながらエビデンスをもとにした解説が行われました。

ICTを活用し教育の質向上へ

また、教育の質保証を推進する同協会の教職員向け研修活動、情報環境整備、著作権への対応、補助金動向等についても報告され、広範囲にわたる活動の一端を垣間みることができました。

当日は、本学教職員を中心に道内私大関係者約50名の参加があり、3時間に及ぶ報告交流会の終盤には会場の参加者との活発な質疑応答も行われ盛会のうちに幕を閉じました。

これからの大学は、自ら考え、失敗を恐れずに答えのない課題に取り組む意欲と能力を持ち、国、社会、地球規模で自分の考えを発信できる人材の育成をしなければならないということを会場全体で共有した貴重な機会となりました。

（学習支援システム課　中本一康課長）

アセスメントテスト GPS-Academic のご紹介

「GPS-Academic」とは、新2年生全員に受検してもらうアセスメントテストで、現代の社会で必要とされる三つの思考力（①批判的思考力：情報の正確な理解と根拠に基づいた考察、②協働的思考力：多様な価値観を理解し、協働する力、③創造的思考力：問題の発見から新しいアイデアを生み出し、実社会で応用する力）を測定し、学生の動機付けを高めるために実施されています。受検方式はCBT（Computer Based Testing）で、学生はインターネットが利用できるPCがあり、期間内（3月下旬～4月上旬）であれば都合の良い日時・場所で受検することができます。

北海高校×法学部カフェ

スタジオジブリ会長 知財を語る

昨年11月28日、株式会社スタジオジブリ代表取締役会長に就任した星野康二氏

宮崎駿監督『となりのトトロ』『もののけ姫』などで有名な映画制作会社、株式会社スタジオジブリの代表取締役会長・星野康二氏と同社管理部部長・西方大輔氏をお招きし、知的財産権について語ってもらう法学部カフェ（北海高校との共催）が平成29年12月9日、D30番教室で開かれた。聞き手は、法学部の淺野高宏教授と館田晶子教授。会場には約300名が訪れた。

知的財産権（知財）とは、知的創造活動によって生み出されたものを、創作した人の財産として保護するための権利。形がなく、財産的価値を有する「情報」であることが知的財産権の特徴だ。

札幌市出身の星野氏は、ウォルト・ディズニー・ジャパン（以下、ディズニー）の社長とスタジオジブリ（以下、ジブリ）の社長という世界的に著名な2つの会社のトップを務め、知財に関わる仕事を多数手がけてきた。

星野氏はディズニー在籍時代にジブリの鈴木敏夫プロデューサーを訪ね、ジブリの作品をディズニーからビデオ化・販売を打診したところ、門前払いされたという。しかしその2年後、鈴木プロデューサーから連絡があり、ジブリの作品群をディズニーから販売する契約が結ばれることに。その際の著作者人格権と編集権の調整など、数々のエピソードを披露した。また、ディズニーとジブリの違いについて「ジブリは創業メンバーがまだ生きている（笑）。宮崎駿、高畑勲（監督）、鈴木敏夫はいまも知財（コンテンツ）をつくっており、そばにいてワクワクドキドキする」と語った。

後半、大学生2名、高校生3名が登壇しスタジオジブリの星野会長と西方管理部部長に様々な質問を投げかけた

法学部カフェ

「女性と家族の政治学 福沢諭吉とホッブズから考える」と題した第46回法学部カフェが昨年12月16日、22番教室で開かれた。話し手は、法学部・中村敏子教授。

政治学の視点から男女平等に向けての長い道のりを、西洋と日本を比較しながら、時にはアリストテレスや聖書の「創世記」の記述にまで遡りながら、中村教授が鋭く分析した。

法学部・中村敏子教授

開発研究所特別研究会

北海道顧問 元総務大臣 増田寛也氏 講演会

人口減少社会における北海道の戦略

開発研究所は平成29年12月12日、60番教室において、北海道顧問で元総務大臣の増田寛也氏を講師にお招きし、「人口減少社会における北海道の戦略」と題した講演会を開催した。

増田氏といえば、平成26年に出版した『地方消滅』で、東京一極集中がもたらす日本の未来図に鋭い警鐘を鳴らし、日本中に衝撃を与えたことが記憶に新しい。それだけに会場は立ち見が出るほどの熱気に包まれた。

北海道顧問・元総務大臣 増田寛也氏

若者のアイデアを地方に

現在の日本では、大学進学や大卒後の就職で、毎年20代の若者を中心に約10万人が地方圏から東京圏へ流出。北海道においても過度の札幌一極集中が起こっており、「北海道は日本全体の縮図」ともいう。

一方で、東京に住む若者のうち、出身地へのUターンを希望する人が約45%に及ぶが、戻りたいのに戻れないという現実がある。「その阻害要因をどう解消し、こうした層にどう働きかけていくかが大切」と増田氏。

具体的な地方の取り組みとして、小学校の授業の一環で技術力の高い地元製造業の「ものづくりフェア」に参加し、早い時期から地元企業を知る機会を設けている長野県岡谷市や、地元の高校生による地元企業・店舗のポスター展を開催して地元愛を深めている福井県大野市を紹介した。さらに、AI（人工知能）やICT（情報通信技術）などの技術革新が、今後の地方創生の問題を解決する一つのカギになりうるとも指摘。「ぜひ若い皆さんのアイデアを生かして、地方の問題を解決するような新しいビジネスに取り組んでほしい」と話を締めくくった。

「地理情報システム論」受講生 経済学部4年 板谷侑生

論文が学会誌に掲載されました

経済学部教授 浅妻裕

本学では特別講義として「地理情報システム論」（GIS論）が開講されており、GISソフト「ArcGIS」の操作方法や、GISを社会科学・人文学の研究にどのように活用するかを教えています。今回、受講生である経済学部4年の板谷侑生さん（札幌稲雲高校出身）の研究論文が「地理情報システム学会」の機関誌「GIS－理論と応用」（査読付き）に掲載されました。板谷さんは、人文学部の村中亮夫准教授（人文地理学）が中心となり実施した石狩市の防災マップ作り（地域連携事業として実施）に3年生の時に参加した際、GISの面白さを知りました。そこで、所属する経済学部浅妻ゼミナールで行っていた廃棄物問題研究にGISを利用できるのではないかと考え、GIS論の受講に加え村中准教授の専門的な指導も受けながら論文執筆作業を進めました。

板谷さんの論文は「人口減少下の北海道における一般廃棄物焼却施設の統廃合―GISを用いたコスト分析を通して―」というタイトルです。現在、道内では多くの焼却処理施設の耐用年数が迫っており、財政問題も抱える中で更なる広域化を視野に入れた統廃合が一つの選択肢として考えられています。板谷さんの論文はこの重大な課題に対して、GISを用いて施設の効率的な再配置について考察したもので、テーマ設定や研究手法が正当に評価されたといえるでしょう。このように、講義・ゼミナールでの学修成果を活用し、多くの学生に研究論文の投稿にチャレンジしてほしいと考えています。

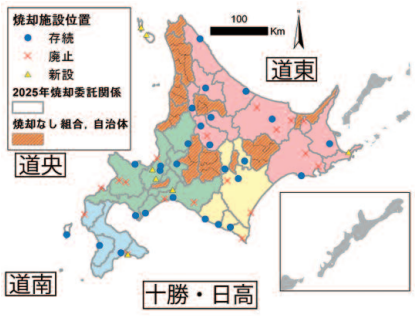


図　2025年の焼却施設位置と委託関係（分析結果）

法学部 講演

本学OB 国税専門官に税制を学ぶ

平成29年11月6日（月）、1・2部法学部行政法Ⅰの授業において、札幌国税局の田中巌課税第二部次長及び梅田龍一国税広報広聴室長をお迎えし、「税務行政の現状と国税庁の取組」「財政・税制の現状と国税庁の取組」と題する講演会が行われた。

田中巌課税第二部次長は、向田直範先生（北海学園大学法学部名誉教授・弁護士）のゼミナール卒業生であり、札幌西税務署副署長、滝川税務署長などを経て平成29年7月に現職に就かれた。梅田龍一国税広報広聴室長は、中元啓司先生（北海学園大学法学部教授）のゼミナール卒業生であり、東京国税局神田税務署副署長、札幌西税務署特別国税調査官などを経て平成29年7月に現職に就かれた。

©田中ラオウ
札幌国税局・田中巌課税第二部次長の似顔絵。似顔絵師である田中氏のご子息・田中ラオウ氏が描いたもの

お二方とも本学法学部で過ごした学生時代を懐かしく振り返られ、国税専門官として務める苦労や喜び、そして大きな誇りを熱く語ってくださった。約600名の学生たちは偉大な先輩たちをまぶしく見上げ、時間も忘れて講演に聴き入った。

札幌国税局国税広報広聴室長 梅田龍一氏

学生たちからは、「実際に現場で働いている方のお話は迫力があり、大変興味深かった」、「国税専門官への憧れが一層強まった。採用試験に向けしっかり勉強するとともに、人間力も磨かなければと思った」などの感想が寄せられた。貴重なお時間を割いて後輩を指導してくださった田中巌様・梅田龍一様に、改めて心より深く感謝申し上げたい。

（法学部教授・鈴木光）

経済学部 講演

税・財政の現状と課題

平成29年11月27日、経済学部1部・財政学Ⅱの授業で、財務省主税局調査課課長補佐の和田弘之氏をお迎えし、「税・財政の現状と課題」と題する講演会が行われた。

財務省主税局調査課 課長補佐・和田弘之氏

現在、国の一般会計の状況は、税収等の歳入によって歳出全体の3分の2程度しか賄えておらず、残りを公債金に依存し、将来世代へ付け回している現状を解説。これを家計にたとえると、手取り月収30万円の家庭が、毎月38万円の生活費を支出し、過去の借金の利息支払い分を含め、毎月18万円の新たな借金をしている状況と説明した。

また、財政が悪化した経緯や国際比較などを通して、日本の国民負担率が諸外国と比べて低いこと、さらに現役世代に対するサービスに必要なコストの負担を将来世代に先送りしている現状などから、受益と負担のバランスや今後の税制のあり方について、国民全体で議論していくことの重要性を語りかけた。

税・財政は国の根幹であるとともに、現在まさに経済・財政一体改革の推進が議論を呼ぶさなかだけに、参加者は一様に真剣なまなざしを向けていた。

自著を語る 12

人文学部教授 テレングト・アイトル

『詩的狂気の想像力と海の系譜
―西洋から東洋へ、その伝播、受容と変容』
現代図書 2016年

タイトルから判明できるかと思いますが、本書は文学創作の源泉について探求したものです。主として①古代ギリシアを起源とする「詩的狂気」や「詩的想像力」というプラトンの主張に対して概念的なアプローチを試み、②それが如何にアリストテレスの唱えた「ミメーシス」（現実模倣）・リアリズムとの対峙のなかで、発生し、展開し、定義され、伝播されてきたか、とりわけ、それが文学作品においてどのように「海」というきわめて特殊なモチーフと絡み合いながら結びついて表象されてきたかを解明し、かつ如何に西洋から東洋に伝播され、受容され、また抵抗・変容などを辿ってきたのかを考察したものです。

詩的狂気と海の文学への探求

そして、③それらの考察を通して文学創作において今までしばしば回避され、とくに東洋においてほとんど疎遠されてきたにもかかわらず、文学作品の背後と根底には、確固として延々と継承してきた詩的狂気の想像力の系譜に改めて光をあてようとしました。

この系譜学的な考察において、「海」は詩的狂気と詩的想像力の試金石になっており、作家や作品の海の表象のありようによって、その詩的狂気の想像力の顕示が測られ、あるいはその認知のスペクトルとして捕捉されるようになっています。考察全体の時代や地域と範囲は、古代ギリシアから端を発し、イタリア・ルネサンスを経由してイギリス・ドイツ・フランスのプレ・ロマン主義とロマン主義時代の文学において勃興されてきたものを本研究の前半とし、後半は、どのように明治日本と近代の中国、そして近代モンゴルの詩人や作家たちに影響を与えてきたのかを考察しました。

考察の作業全体の根底には、東西を問わず文学創作の源泉と原理に対しての美的感受性と認識の在り方が貫いている。奇しくもそれは、オランダ画家のレンブラントの「ホメロスの胸像を見つめるアリストテレス」という絵――いわば現実模倣や写実主義（リアリズム）を基本原理とするアリストテレスが、詩的狂気の想像力の起源のシンボルであるホメロスの彫像を撫でていかに苦悩しているかの姿――において表象されており、またドイツ画家のカスパーの「海と僧侶」という絵――僧侶が教会にではなく、未知なる暗黒の海に祈りを捧げ、霊性を求めているかのような姿――において文学・芸術の詩的狂気の想像力のありようが表象されています。筆者は、それを本の表紙と裏表紙にあてました。

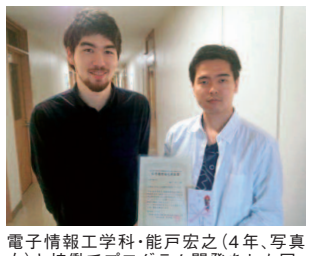
人間が文学・芸術において詩的狂気や詩的想像力によって如何に創造的になったか、あるいはそれによって如何に幸運なカタルシス（癒やし）の効果を手繰り寄せるようにしてきたのかを理解するのに、本書は、これらの絵画のモチーフと共に読者の一助になれば幸いです。

工学部電子情報工学科4年

若手優秀論文発表賞 受賞

能戸宏之（元木邦俊研究室）

平成29年度電気・情報関係学会北海道支部連合大会が昨年10月28・29日、公立はこだて未来大学で行われ、電子情報工学科4年の能戸宏之さんが、若手優秀論文発表賞を受賞した。


電子情報工学科・能戸宏之（4年、写真右）と協働でプログラム開発をした同・グドール聖哉（4年）

発表テーマは「正弦波モデルによる歌声のMIDIデータ化」。例えば、歌声合成ソフトとして有名な「初音ミク」が、あくまで実際の人の声をサンプリングし、それを元にして歌声を合成するのに対し、能戸さんは正弦波モデル（音信号の波形を多数の正弦波の和で表現したモデル）を使ってイチから音声を合成することにチャレンジ。

「この研究を発展させれば、どんな声も人工的に自在に合成することが可能です」と能戸さん。

この研究は、音声情報処理を専門にする元木邦俊教授の研究室に所属する能戸さんが、自身で興味を持ったことを卒業研究のテーマとし、同級生のグドール聖哉さんと協働でプログラム開発を進めたもの。「青木直史先生（非常勤講師・北海道大学助教）には研究を進める上で助言を得たり学会での発表を勧めていただき、元木先生には6度にわたる発表練習をご指導いただきました。受賞できて本当にうれしいです」と喜びを語った。

大田大学校（韓国）

交換留学生 修了式挙行

去る1月25日、協定校である韓国・大田大学校から昨年4月より本学に留学していた学生3名の修了式を挙行し、皆、達成感に満ちた表情で修了証書を手にした。

前列左から張 至煐（チャン ジヨン）さん、梁 準秀（ヤン ジュンス）さん、安酸学長、李 蕙璡（イヘジン）さん

学園人脈記

第3回

クリプトン・フューチャー・メディア株式会社
代表取締役　伊藤博之（いとうひろゆき）氏
経済学部経済学科 平成2年度卒・Ⅱ35期生

豊平川の清涼な空気が若き日のアイデアを育んだ

今回は、前回登場した作曲家・彩木雅夫さんからのご紹介で、「初音ミク」の生みの親として知られるクリプトン・フューチャー・メディアの伊藤博之さんだ。

そもそも初音ミクとは、歌詞とメロディーを入力すれば、誰でもその曲を歌わせることができる歌声合成ソフトのこと。2007年に同社が開発・販売すると、その魅惑的で愛くるしいミクのキャラクターとも相まって、空前のブームが巻き起こった。今では国内外で、透明なスクリーン上に映し出された3D映像の初音ミクによるコンサートまで開催され、2016年の北米ツアーでは3万6千人以上を動員するなど世界中の人々を魅了している。

とはいえ、「うちはキャラクターだけをやってる会社ではなく、〝音〟を核にさまざまな価値を社会に提供していく会社です」と伊藤さんがいうように、もともと同社は、効果音などのサウンド素材を開発・輸入販売する〝音の商社〟として創業され、今ではソフト音源やサンプルパック、効果音・BGMライブラリ製品などを配信する世界最大級のサイト「SONICWIRE」の運営など、多角的な事業を展開している。

◆◆◆

ところで、学園大出身者には社長が多いことはよく知られる事実である。「道内企業の出身大学別社長数」を見ても、北海道大学を押さえ、6年連続の首位（帝国データバンク札幌支店「北海道内企業の社長分析」より）。

「その話は聞いたことがありますが、何が理由なのかはよくわからないですね」と笑う伊藤さんは、「もともと僕は、高校を出たら就職すると決めていたので、大学に行く気はなかったんですよ」

釧路市の高校を卒業した伊藤さんは、国家公務員試験に合格し、文部省（当時）職員として働き始める。ところが、たまたま配属されたのが北海道大学工学部の研究室で、「そこが変わった研究室で、職員もどんどん研究に参加していいよ、という雰囲気があったんです」

伊藤さんは、ここで草創期のコンピュータの世界に触れるとともに、英語論文を読むために、語学の勉強まで始めるようになった。「すると、メキメキいろんなことができる自分に気づいたんです。周囲も大学生ばかりだし、少しうらやましくなって」

そこで、昼間は公務員として働きながら、夜間に学べる本学経済学部2部に入学したのである。「ちょうどその頃から、今の会社の前哨戦ともいえる活動を始めていたこともあって、経済や経営という方面に関心が向いたんでしょうね」

大学時代を振り返るとき、伊藤さんが今でも思い出す光景があるという。当時はまだ地下鉄東豊線がなく、学園大の最寄り駅は南北線・中島公園駅だった。そのため南9条橋を渡ってキャンパスへ向かわなくてはならないが、「あの橋を渡る時間が妙に印象的で。山があって川があって、その間にいろんなアイデアが浮かぶというのかな。大学と大学外の活動が切り分けられていくような感覚がありました」

◆◆◆

伊藤さんが、現在の会社を起業したのは30歳の時。

もともと中学時代からエレキギターを弾き、趣味が音楽だったという伊藤さんだが、「コンピュータと音楽を使って何か面白いことができないか」との発想から、サンプラーにのめり込んだ。

サンプラーとは、さまざまな音を取り入れ、それを加工して再生できる電子機器のことだが、自ら制作した効果音を海外の雑誌に広告を出して売ったり、逆に海外の会社と提携して、映画会社やテレビ局、ゲーム会社などにライセンス販売を行う〝音の商社〟として成長していく。

「ボーカルソフトウェアの開発は、その延長線上にあった」と伊藤さん。

また、これまで培ったコンテンツや技術力を生かし、さまざまな地域プロジェクトも推進する。「北海道って可能性がたくさんあるんですけど、道民自身がそれに気づいていないところがある。やはり根本は自分のやりたいことを、とことん突き詰めること。『長いものには巻かれろ』ではなく、自分の理想と現実が食い違ったときは、文句をいうより、まず自分が動くこと」

伊藤さんから後輩たちへの貴重なメッセージだ。

北海道を応援するキャラクター「雪ミク」。さっぽろ雪まつり恒例のイベント「SNOW MIKU」や、雪ミク電車（札幌市交通局）など様々なコラボ企画で北海道を元気づける。

プロフィール　1965（昭和40）年標茶町生まれ。釧路北陽高校を卒業後、国家公務員試験に合格し、北海道大学の職員として工学部精密工学科の研究室に配属される。勤務のかたわら、本学経済学部2部に入学、1991年卒業。1995年、クリプトン・フューチャー・メディア株式会社を設立し、2007年に発売したVOCALOID2 初音ミクが空前のブームを巻き起こす。2013年、藍綬褒章を受章。

ステンドグラス寄贈　中村氏へ感謝状

本学同窓生・中村保忠氏（経済学部経済学科 昭和40年度卒・13期生、大和郡山市在住）から、自身制作のステンドグラス2点が本学に寄贈され、昨年12月1日、学長から感謝状が贈られた。

また、学生時代を振り返り、当時では珍しかったであろう奈良から札幌への進学について、その思いを綴っていただいた。

中村　保忠（なかむらやすただ）
経済学部経済学科
昭和40年度卒・13期生

写真：感謝状を手にする中村氏（中央）と同窓会事務局長・髙田哲也氏（右）。後ろは寄贈された作品「カトリック元町教会」

同窓生の声

私も道産子だ！

多感な17才。当時私は県下一の進学校・H高校の末席で悶々とした日々でした。勉強しても結果が出ず、授業をサボって弁当だけ持って大阪まで山越えで歩いたり、京都の新京極で映画を見て、終礼の頃、学校に戻る。自由な校風で叱られた記憶はありませんが、「何か自分の存在を認めてくれる場所は無いか」と悩んでいました。

そんな時、父が買ってきた週刊紙に「北海道別海村の開拓民」の特集を見つけました。「せや！　北海道へ行って開拓民になろう」これはもう一目惚れ以外の何ものでもありません。秋には退学届けを出し、親に「北海道へ行って開拓民になる！」と宣言しました。父からは「一旗揚げるまで帰ってくるな！」と怒って水盃を交わし勘当されました。

そして10月に渡道。札幌のTさん宅（親が探してくれた私の恩人）に滞在し、岩見沢農業高校と野幌機農高校に転校願いを出しました。でも両校とも「そんな良い学校に通っているなら卒業後でも遅くありませんよ」と諭され断られました。父の元へは帰れませんが、両親が東大阪の親戚宅に頼んでくれて、そこからH高校へ通いました。幸い、担任のY先生は退学届を保留してくれていました（高校での最大の恩人です）。

現実の北海道を目にして、恋患いは一気に熱を帯びました。ついに本気で勉強を始め、まもなく受験雑誌で北海学園大学を見つけたのです。私を虜にしたのは大学のキャッチフレーズ「パイオニアスピリット」で、「何としてもこの大学へ行く」と益々熱が入りました。当時の学園大の入試は3月末。大阪から36時間、列車を乗り継いで受験に行きました。夢にまで見た大学は雪の中にポツンと建つ3階建の一棟だけ。でもがっかりしませんでした。何せ恋患いの女神に会えたのですから。

私は「本当の道産子より、私の方がずっと北海道が好きな道産子だ！」と自負しています。そして学園大は思った以上に私を一人前の大人に育ててくれました。

卒業研究発表会

4年間の集大成となる卒業研究発表会が工学部で行われた。鋭い質問に的確に答えるなど、充実した発表だった。内容は次の通り。

【社会環境工学科 研究室と発表者人数】（2月16日・21日・22日）▽**【構造系】**高橋義裕研究室7人、小幡皐司研究室6人、計13人 ▽**【土・施工・計画系】**堂柿栄輔研究室7人、武市靖研究室6人、上浦正樹研究室7人、小野丘研究室7人、計27人 ▽**【水・環境系】**余湖典昭研究室7人、嵯峨浩研究室6人、山本裕子研究室7人、許士達広研究室7人、計27人

【建築学科 卒業設計発表会】（2月15日）氏名、テーマ）▽**最優秀賞**：加藤弦生『STOMACH COMPLEX』▽**優秀賞**：茂泉悠希斗『木漏れ火の棲み処』

【建築学科（論文）研究室と発表者人数】（2月19日）佐々木博明研究室3人、真柄祥吾研究室1人、串山繁研究室2人、足立裕介研究室13人、植松武是研究室12人、石橋達勇研究室11人、岡本浩一研究室7人、佐藤哲身研究室10人、杉山雅研究室13人、計72人

【電子情報工学科 研究室と発表件数】（2月5日・6日）菅原滋晴研究室9件、大西真一研究室10件、菊地慶仁研究室9件、元木邦俊研究室4件、高氏秀則研究室10件、魚住純研究室9件、佐藤晴彦研究室9件、内田ゆず研究室10件、計70件

【生命工学科 卒業研究優秀発表賞】（2月15日・16日）氏名、テーマ）▽**「人間情報系」**梶原一郎「非航空系収益に着目したDEAによる空港経営効率性の評価」、米田沙羅「キャラクター性を持った対話システムの構築」、加藤椋介「VR将棋ゲームを実現するための手法」、正田遼平「北広島市における人口増加と居住地誘導の施策評価」、澤田顕吾「姿勢はクリエイティビティを変えうるか？」▽**「生命工学系」**上村菜摘「低コスト実現に向けたヒトiPS細胞からの神経細胞分化誘導法の開発」、高橋夏海「コマクサおよび近縁種のITS領域の有効性」、坂本麻佑花「細胞間接着タンパク質の欠損による上皮細胞の協調運動への影響と定量解析」、飯渕哲了介「重点対策外来魚タイリクバラタナゴの駆除に向けた遺伝子工学的戦略」、吉田達紀「環境性レンサ球菌ワクチン（GST-GapC）の作製 キメラ型新規ワクチンの試み」

社会環境工学科
卒業研究発表

建築学科
論文発表

建築学科
卒業設計発表

生命工学科
卒業研究発表

電子情報工学科
卒業研究発表

経済学部 地域研修 経営学部 企業研修

経済学部2017年度地域研修報告会が昨年11月25日と12月2日に行われた。今年度は21ゼミ、計311名の学生が履修した。また、経営学部2017年度企業研修成果報告会が11月29日と12月6日に行われた。今年度は16名が履修した。内容は以下の通り。

経済学部 2017年度「地域研修」ゼミ・研修地・テーマ〈参加：21ゼミ　計311名〉

ゼミ	研修地	テーマ
浅妻裕ゼミ1・2部 浅妻裕ゼミⅠ・Ⅱ	森町・伊達市 苫小牧市	地域における再エネ活躍の条件
浅妻裕ゼミⅡ	伊達市 室蘭市	地域経済・産業の静脈部に関する研修
内田和浩ゼミⅠ・Ⅱ	留萌市	留萌市のまちづくりに対する地域住民意識
大貝健二ゼミⅠ	別海町	別海町の基幹産業の現状と課題を学ぶ
大貝健二ゼミⅡ	高知県高知市・土佐市 四万十町・黒潮町	高知の田舎はなぜ元気なのか？を真正面から考える
川村雅則ゼミⅠ	札幌市	学生アルバイトをめぐる問題
川村雅則ゼミⅡ	札幌市	学生アルバイトをめぐる問題、労働組合、労使関係
徐 涛ゼミⅠ・Ⅱ 2部徐 涛ゼミ	旭川市	外国人観光客誘致の実態調査：市民意識調査
佐藤信ゼミⅠ・Ⅱ	倶知安町 ニセコ町	ニセコ町におけるまちづくり
中囿桐代ゼミⅠ・Ⅱ	札幌市	地域で求められる子どもの貧困対策を検討する
西村宣彦ゼミⅠ・Ⅱ	静岡県 掛川市	東海道・掛川の経済・文化と互産互生の可能性
濱田武士ゼミⅠ	網走市	人口減少社会と地域産業そして若年層
早尻正宏ゼミⅠ	中川町	多様な森林利用に基づく山村地域の再生実践
古林英一ゼミⅠ	三重県 四日市市	四日市公害の歴史的教訓と現代的意義を学ぶ
古林英一ゼミⅡ	栃木県日光市 足尾町・栃木市	足尾銅山鉱毒事件の現場を訪れ、現代への教訓を学ぶ
水野邦彦ゼミⅠ・Ⅱ	幌加内町 朱鞠内	朝鮮人強制労働の痕跡を訪ねる研修
水野谷武志ゼミⅠ・Ⅱ	滝川市 北竜町	買物難民問題の現状とその対策
宮入隆ゼミⅠ・Ⅱ	新十津川町・深川市 旭川市・当麻町・比布町	北海道稲作の現状と道産米販売戦略の方向性
2部宮入隆ゼミⅠ・Ⅱ	和寒町	地域農業振興と農協の役割 ―和寒町を事例に―
山田誠治ゼミⅠ	富良野市	富良野のブランド力はどのように維持できているかを探る
山田誠治ゼミⅡ	東京都 群馬県草津町	東京の北海道ブランドを探り、草津温泉から学ぶ

経営学部 2017年度「企業研修」派遣先・日程〈派遣先：8社・団体、参加：16名〉

派遣先	実施研修日程
株式会社プリプレス・センター	8/21～9/1
イオン北海道株式会社	8/22～8/26
富士通エフ・オー・エム株式会社	8/28～9/1
株式会社モロオ	8/17～8/29
一般社団法人 北海道中小企業家同友会	9/4～9/15
野口観光株式会社	9/5～9/15
丸水 札幌中央水産株式会社	9/1～9/12
鶴雅リゾート株式会社	8/20～9/2

第49回 教養講座

音楽プロデューサー／作曲家　蔦谷好位置（つたやこういち）氏
経済学部経営学科 平成10年度卒・31期生

学生部は平成29年12月4日、60番教室にて音楽プロデューサーで作曲家の蔦谷好位置氏をお招きし、「捨てるプライド 捨てないプライド」と題した講演会を開催。進行役は北海道文化放送の福本義久アナウンサーが務めた。

蔦谷氏はSuperfly、ゆず、木村カエラ、JUJU、絢香など数々の人気アーティストへの楽曲提供やプロデュースなどで活躍する、本学経済学部のOBだ。

蔦谷氏は、小学生の頃からパソコンで作曲をしていた。大学時代はJAZZ研に所属してバンドを結成し、有名レーベルのほとんどから声がかかるほどになったという。「当時の僕は、自信過剰で相当嫌なヤツでしたね」と笑う。

しかし、CANNABISというバンドでデビューを果たしたものの、1曲のヒット曲も出せずに解散。どん底を経験し、「音楽を続けることだけがプライドだった」と当時を振り返る。

転機は平成17年。蔦谷氏のデモを聴いたYUKIさんが、「この曲を10年待っていた」と評価。それが「JOY」という曲としてヒットし、人生が一変した。

聴き所満載の講演会に、最後まで質問する学生が途切れなかった。

ニュージーランド
留学体験記 ④

河﨑 秋子

ところ変われば コストも変わる

北海道の羊はそろそろ分娩シーズンを迎える。快適に過ごせる畜舎を用意して、凍えることなくお産をしてもらわなくてはならない。

なにも冬の最中に子を産まなくてもいいのにと思われるかもしれないが、外敵に襲われる危険性が一番少ない冬に出産し、その子が離乳する頃に栄養のある若芽が食べられるよう、種としてベストなタイミングが計られているのだ。草食動物ゆえの知恵といっていいかもしれない。

★★★★

さて、南半球は季節が真逆なため、NZでは8月に分娩シーズンが始まる。ただし、降雪量が少ないかほとんど降らない地域が多く、気温は全般的に冬でも穏やかなため、家畜は放牧されっぱなしだ。分娩も、畜舎ではなく当然のように牧草地のど真ん中で行われる。

羊の場合だと毛刈り小屋、酪農だと乳搾り小屋程度はあるが、基本的に家畜のために畜舎を用意する必要がない。北海道で同じように数千数万の家畜を一つの牧場で飼育すると、広大な羊舎や牛舎が必要になり、当然、建設費、維持管理費はとんでもない額になる。NZでは気候の穏やかさ故にこの畜舎がほとんど必要ない。これは経営上非常に大きな強みだ。

また、一般の人にはあまり知られていないが、日本の牧草地では草の種を蒔いて時々肥料をやって放置しておけば青々とした草が毎年滞りなく生えてくれる、という訳ではない。こまめに種や肥料、雑草用の除草剤を散布するのはもちろん、数年に一度、草地改良といって重機によって土を深部から掘り返し、牧草の種をまた一から蒔き直さなければならないのだ。これを怠ると、土は家畜の蹄に踏み固められてカチカチになり、見る間に草の生えない荒地になってしまう。

対して、NZの牧草地は永年草地といって、基本的にほったらかしだ。必要に応じて種を蒔いたり肥料を与えたりというメンテナンスはあるにはあるが、草地改良という概念はほとんどなく、草が自然と代替わりするに任せている。これは気候に加えて、土壌そのものの強さ、放牧圧の低さ（1ha当たりの家畜頭数がNZは極端に低い）などの要因がある。

★★★★

どちらの国や地域でも、飼育されている家畜自体や必要な栄養はほとんど違わない筈なのに、ところ変われば条件が異なり、それが必要コストの大きな差となって表れてしまう。よりコストが少なくてすむ地域に適した産業が栄える。大学で勉強していた内容が、日本の農業の弱点と共にまざまざと見せつけられた思いがする事柄だ。

【経済学部平成13年度卒・49期生】

牧草畑で生まれたばかりのNZの羊（黄色いのは羊水のため）（提供：筆者）

経営学部4年
太齊（たさい） 周平（しゅうへい）

公認会計士試験 2年連続の現役合格

一昨年に続き本学経営学部の現役学生が昨年11月、会計系の国家試験の最高峰といわれる公認会計士試験に見事合格した。この難関を突破したのは経営学科4年の太齊周平さん。願書提出者数1103人、最終合格者1231人、合格率11・2%という狭き門だった。

左から、中村寿司教授、安酸学長、太齊周平、赤石篤紀教授。学修奨励金授与式にて

太齊さんが試験に挑戦するきっかけになったのは、軽い気持ちで受講した簿記の学内講座だった。講師の先生から「会計士を目指してみないか?」と勧められ「調べてみると、スゴイ資格だと驚きましたが、同時に挑む価値もありそうだと思ったんです」。一昨年、3年次での最短合格を果たした笹本拓実さん（学報109号掲載）とは、よき勉強仲間。「予備校の自習室に行くと、つねに笹本がいて、かなりの刺激を受けました。彼が1年先に合格したときにも、同期の笹本が受かったんだから自分も頑張れると大きなモチベーションになりましたね」

卒業後の太齊さんは、日本の4大監査法人の一つ、有限責任監査法人トーマツに就職。金融事業部への配属も決まっており、2年以上の実務経験を積んだ後、実務補習と修了考査の合格をめざす。「将来は特定の分野に秀でたプロフェッショナル、例えば、金融ならオレに任せろ、といえるようなスペシャリストになりたい」と力強く抱負を語る。

大学では赤石篤紀経営学部教授のゼミに所属し「先生には、もし現役合格できなかった場合の進路までも親身にご心配いただきました。かえってそのおかげで合格して先生の驚く顔が見てみたいと思って頑張りました」と笑う。

教育振興会から学修奨励金給付

太齊さんに教育振興会から学修奨励金が給付されることになり、昨年12月20日、教育振興委員長・中村寿司教授、事務部長、大学院事務部長、赤石篤紀教授が同席の中、安酸敏眞学長から手渡された。

私の学び

NHK全国大学放送コンテストで1位

経営学部経営学科2年
塚田（つかだ） 沙也華（さやか）

第33回NHK全国大学放送コンテストが2016年12月3日、京都市内で行われ、経営学科2年の塚田沙也華さんが、「アナウンス部門」1位に輝いた。塚田さんは本学放送研究会の第54代会長を務め、1位入賞は創立50年以上の伝統をもつ同研究会で初の快挙と注目を集める。

同大会は、アナウンス部門・ラジオドラマ部門・映像番組部門など6部門からなり、全国の応募作品（今回のアナウンス部門の応募総数は121）のうち、予選を勝ち抜いた作品（同8）だけが、毎年京都で開催される本選に出場できる。

当日は、自ら用意した1分10秒～1分30秒のアナウンス原稿と、運営者側から当日渡される原稿をその場で読む決勝課題で審査。「すごく緊張してしまって、声もうまく出なくて、自分では最下位かと思ったほど。結果発表で名前を呼ばれたときは驚きました」と笑う。1位となった要因については「きれいに原稿を読める人が多い中、私は人に伝えようという意識だけはあったのかな」と語る。

将来アナウンサーの仕事に就きたいと塚田さんが思ったのは小学生の時。高校時代も放送部で腕を磨いた。大学選びの際も、本学放送研究会の活動内容をしっかり調査。とはいえ、経営学部に入学したのは、社会心理学を学びたいというもう一つの動機があったから。

「現在、古谷嘉一郎先生のゼミに所属し、自分が学びたいことを学べるという大学の面白さを満喫しています。今はむしろ、何がなんでもアナウンサーという凝り固まった考え方ではなく、じっくり自分の視野を広げたい」

もちろん、部活動のほうもますます充実。メンバーも道内高校放送部の精鋭が集まっており、「入賞もそんな仲間から刺激を受けたおかげです」と顔をほころばせる。

コンテストでアナウンス部門1位の賞状とトロフィーを手にする塚田さん

経済学部・内藤永ゼミ × 北広島市

スイーツ「ドラロン」共同開発

経営学部経営学科3年　長谷川（はせがわ） 修哉（しゅうや）

ドラロン共同開発プロジェクトは、一昨年から2年連続で北広島市からの学生地域活動支援事業補助金を受け、外国人観光客誘致による地域活性化を目的に、地元の和洋菓子店「安寿真」のご協力のもと取り組んでいます。

写真上：1月24日、札幌駅前地下歩行空間での販売会にて。右から、経営学部・片原悠貴（3年）と長谷川修哉（3年）
写真右下：どら焼きの生地に餡とクリームチーズをはさんだドラロン

ドラロンとは、どら焼きとマカロンを組み合わせて命名したもので、どら焼きの生地をベースに、中には餡とクリームチーズを入れ、海外の方の嗜好にカスタマイズしたお菓子です。

一昨年、台湾とベトナムでアジアのスイーツ市場調査を行い、味・大きさ・見た目等の観点からスイーツに対する嗜好をアンケート調査してきました。その結果を受け、昨年は試作品を開発し、研究室の学生だけではなく友人や外国人留学生からも意見を集め、試食会を何度も重ねた末に一つの商品として完成させました。

これまでに、三井アウトレットパーク 札幌北広島と地下歩行空間にて販売会を行いました。販売会では、お客様の注目を集めるようなレイアウトとディスプレイ、英語と中国語に対応したチラシとPOPの作成とスタッフの配置、SNSを活用した広報活動などに力を注ぎました。その結果、3日間で用意した合計886個すべてを完売させることができました。今ではドラロンの定番商品化が決定し、地元のお客様からも好評を頂いています。

この度の活動を通じて、一つのビジネスがどれだけ多くの方のご理解とご協力で成り立っているのか、商品化するために陰でどれほどの努力や試行錯誤がなされているのかを実感することができました。

次年度は海外でのテストマーケティングも視野に入れ、専用のパッケージ作成に取り組みます。北広島市のグローバル化による地域活性化を目指して、10年規模のプロジェクトとして努力していきます。

経済学部
早尻ゼミ生

中川町・丸太レースで2位 地域と絆深める

第5回KIKORI丸太レースが2月25日、道北の中川町で開催され、経済学部地域経済学科・早尻正宏ゼミ（開発政策論）が初参加ながら一般男子で2位に輝きました。同レースは長さ3・65メートルのトドマツの丸太をロープを使い3人一組で30メートル引っ張る雪上競技。地域存続の危機に立つ中山間地や旧産炭地の再生問題をテーマとする早尻ゼミでは今夏、経済学部の講義「地域研修」を中川町で実施しました。丸太レースへの参戦は地域再生にかける同町の取組に共感した学部2年のゼミ生有志の発案によるもの。町長をはじめ町民から熱烈な歓迎を受けるなど濃密な交流ができ、大学と地域の「絆」を確かめ合う場となりました。早尻ゼミでは引き続き、過疎問題の最先端を行く道北地域を拠点の一つとしながら、地域に根差した学生主体のゼミ活動を進めて参ります。

（経済学部・早尻正宏准教授）

約0.5トンの丸太を引っ張るゼミ生たち

早尻ゼミ生。左から、学部2年／加藤楠英、石山和弥、佐々木将人、福丸嵩大

スカッシュラケット部

全道選手権で優勝

昨年9月10日、札幌市内で行われた全道スカッシュ選手権で本学スカッシュラケット部の宇田大輝選手（経済学部4年）が優勝し、11月23～26日の第46回全日本スカッシュ選手権大会（倉敷）に出場した。惜しくも予選決勝で敗退したが、国内最高峰の競技会で全力で戦った。

12月1～5日には第45回全日本学生スカッシュ選手権大会（横浜）が行われ、同部員17名が出場。宇田選手がベスト8、菅原陸選手（工学部3年）がベスト32。新人男子においても岩本優介選手（法学部1年）がベスト8、新人女子の笹木鈴香選手（経済学部1年）がベスト16に進出するなど好成績を収め、今後の活躍が期待される。

全道スカッシュ選手権で優勝し全日本選手権に出場した宇田大輝選手（経済学部4年）

人文学部
田中綾ゼミ

ゼミ誌刊行

日本近現代文学研究と小説や詩などの創作を行っている田中綾ゼミから、2017年度のゼミ誌『A207』（1部）と『道標』（2部）が刊行された。執筆、編集、表紙デザインなどすべて学生たちの手で作り上げた力作。巻末にはゼミで一年間取り組んできた三浦綾子の作品の分析・研究内容も掲載している。

就職活動 INFORMATION

キャリア支援センター

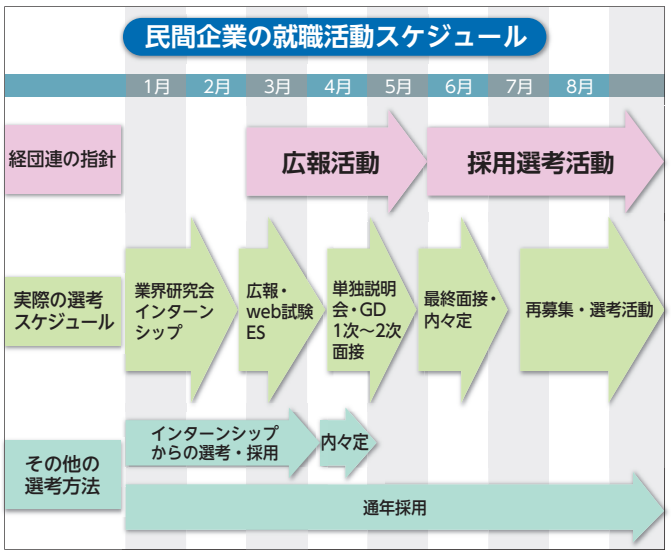
就職活動本格化

【民間スケジュール】

日本経済団体連合会と就職問題懇談会の申し合わせにより、2019年入社対象の就職活動スケジュールは3月採用広報開始、6月選考開始という指針が発表されています。本学でも3月1日から5日にかけて学内合同企業説明会を実施し、約390社に参加いただきました。

指針では6月から選考となっていますが、実際はというと、SPI3などの筆記試験やエントリーシート（ES）は3～4月上旬にインターネット上で受験・提出させる企業が多数あります。面接試験も前倒しとなっており、4～5月中にグループディスカッション（GD）や1次・2次面接、5月中下旬に最終面接、6月上旬に一度目の内々定を出すようなスケジュールとなっています。その他にもインターンシップからの選考・採用や通年採用など、採用方法も多様化しています。

このようなスケジュールになっているため、6月には一度企業の採用活動が沈静化します。学生側からすると「求人がない」と勘違いしがちですが、6月以降も採用活動を継続している企業は多数あります。大学には1年を通して多くの求人票が届きますので、それまで気に留めなかった企業でも自分に合った企業があるかもしれません。



自分の将来 計画的に

「人気」企業や「自分が好きな」企業だけを受験するのでは必ずしも結果が伴わないことがあります。今一度自分を見つめなおし、自分が「好きな」企業だけを受験するのではなく、自分が「活躍できそう」と思える企業を探してみてください。

【公務員試験】

3月は公務員志望者にとってモチベーションが下がりやすい時期です。模擬試験をたくさん受験してはいるものの、なかなか結果が振るわず落ち込んでしまい、「民間企業への進路変更」について相談に来る学生が多くなります。模擬試験はあくまで自分の実力を知り、本試験の対策を立てるための道具です。模擬試験の結果で一喜一憂するのではなく、本番で成果を出すために有効活用してください。民間企業への進路変更は筆記試験が落ち着いてから考えても遅くありません。

また、面接試験対策についても考え始める時期になりました。近年はほとんどの官庁が人物評価を重要視しますので、学生生活の振り返りや公務員の仕事に対してのやりがいなど、筆記試験対策の合間に取り組んでみてはいかがでしょうか。

面接試験対策

【多くの学生が苦手意識を持っている】

就職活動と切っても切れないものといえば「面接」。個人面接はもちろん、集団面接、グループディスカッションなど、企業は多彩な面接試験で「自社で活躍できる人」をさがしています。この面接試験、胸を張って「得意」という学生はあまり多くありません。理由は「社会人が怖い」、「普通の学生生活だったので自慢できることがない」、「上手に言いたいことが伝えられない」など様々です。

【学内セミナーを活用しよう】

その苦手と感じる面接、まずは練習してから本番に挑んでみませんか？ 本学では公務員・民間志望を問わず、少人数制の面接実践セミナーを開催しています。模擬面接の風景をビデオで撮影して自分の立ち振る舞いを見る「基礎マナー編」と、より実践を意識した模擬面接を行い、その受け答え内容についてフィードバックを受ける「個別指導編」があります。自分の強みや将来性を伝えられるようにトレーニングする場として学内セミナーを開催しています。

面接以外にも書類添削や個別相談などを随時行っていますので、お気軽にキャリア支援センターをご利用ください。

内々定取得と辞退の作法

少し気が早いかもしれませんが、これから選考が進むにつれ、複数社から内々定をいただくことがあるかもしれません。2社以上からいただいた場合はどちらかを辞退することになりますが、「辞退」や「回答保留」は慎重に扱ってください。対応次第で、本人の社会的モラルを問われるだけでなく、後輩に大きく影響を与えることもあるので、良識のある行動を心掛けてください。

【内定を取得したらまず何を確認する？】

内定承諾書の提出期限を確認しましょう。企業は提出イコール「入社の意思アリ」と捉えますので、それを十分に認識した上で提出しましょう。提出しない場合も、必ず電話等で辞退の意思を早急に伝えることが大切です。

【複数企業から内定を取得した時は？】

複数社より内定をいただいた場合は少しでも早く1社に選定し、それ以外の内定企業へは辞退の連絡を早急にすることが鉄則です。承諾の期限を過ぎてしまうと辞退の連絡がしづらくなります。また、企業は予期せぬ採用活動を強いられ、大きな労力とコストがかかります。

【企業Aの最終選考結果が、企業Bの内定承諾書提出期限までに出ない場合は？】

まずは、内定をいただいた企業Bへ内定承諾書の提出期限の延長が可能か聞いてみましょう。企業Aの最終結果が出るまで延ばしていただけるのであれば、その結果をみて決定しましょう。延長できない場合は、原則その時点で企業Bへ入社の意思を出すかどうか決断し連絡をしなければなりません。判断が難しい場合は、一人で悩まずキャリア支援センターに相談しましょう。

新3年生 これからの学生生活

大学生活も後半戦に突入します。後半戦のキーワードは「学業」と「社会」です。3年生後期から4年生にかけて就職活動が本格化していきますが、就職するためにはまず大学を卒業しなければなりません。

近年は、単位修得状況や学業の中で特に力を入れて取り組んだ科目について質問する企業も増えていますので、単位の取得だけでなく、興味や関心を持って学業に取り組んでほしいところです。また、企業から提出を求められる書類の一つに「卒業見込証明書」というものがあります。この書類は翌年3月には卒業することが見込まれることを大学が証明する書類です。企業は当然、卒業できることを前提に内定を出しますので、卒業見込証明書がないと採用試験が受けられないこともあります。4年次に時間的余裕をもって就職活動を行えるよう、しっかりと学業に取り組んでください。

また、時間を見つけてインターンシップなどに参加し、社会人と接する機会を作ってください。参加企業選びも就活に有利・不利という視点ではなく、現場で活躍している社会人はどんな人なのかなど、企業や職業について具体的な知識を少しでも蓄えるといった目的で参加してみてください。社会人の働く目的も「お金をたくさん稼ぎたい」「社会に認められる仕事がしたい」「もっと成長して活躍したい」など多様です。たくさんの考え方や価値観に触れ、自分が満足できる「働き方」を考える一助にしてみてはいかがでしょうか。

学長室訪問

▽11月15日 北海高等学校長 山崎省一氏
▽12月1日 本学経済学部卒業生 中村保忠氏
▽12月4日 教養講座講師 蔦谷好位置氏
▽12月11日 カナダ・ブロック大学 バリーラッシュ氏
▽12月12日 北海道顧問 元総務大臣 増田寛也氏
▽12月19日 公益社団法人私立大学情報教育協会長 向殿政男氏、同事務局長 井端正臣氏
▽1月11日 丸善雄松堂株式会社札幌支店長 瀬尾一幸氏、他2名
▽1月16日 酒井純事務所公認会計士 酒井純氏
▽2月20日 北海高等学校長 山崎省一氏
▽2月20日 ESRIジャパン株式会社代表取締役社長 正本陽氏、同ソリューション営業グループ部長 梅宮康一氏、同グループ 福田潤氏

左から4人目がバリーラッシュ教授（12月11日）

本学初開催 ANAエアラインセミナー

ANAの現役キャビンアテンダント・グランドスタッフが講師を務める「ANAエアラインセミナー」が平成29年12月21日、32番教室で行われた。

これは昨年8月2日に本学とANAエアラインスクールが教育連携協定を締結したことによるもので、本学において初の開催。122名の学生が参加した。

セミナーでは、キャビンアテンダント・グランドスタッフ・グランドハンドリングの仕事内容のほか、企業が求める人物像などについて詳細に説明。また、実際に機内やカウンターで行われているアナウンスも披露し、参加した学生は熱心に耳を傾けていた。

なお、教育連携協定を締結したことで、優待受講制度を利用して「ANAエアラインスクール札幌短期集中コース」が受講できる。詳細は、キャリア支援センターまで。

現役のキャビンアテンダント・グランドスタッフが仕事内容などを説明

平成29年度 卒業証書・学位記授与式	平成30年度 入学式
3月21日(水) 10:30	4月3日(火) 10:30

両式典会場　北海道立総合体育センター「北海きたえーる」メインアリーナ
札幌市豊平区豊平5条11丁目1番1号
※駐車場がないので、公共交通機関をご利用ください

交通機関　地下鉄：東豊線「豊平公園」駅下車、地下鉄連絡通路直結
バス：札幌駅前または札幌駅前バスターミナルから白石、清田、西岡、平岡行き乗車（中央バス）「豊平3条12丁目」下車徒歩5分

卒業祝賀会

同窓会と共催で開催する祝賀会は、卒業をお祝いするとともに、同窓会への入会式でもあります。学生時代を共に過ごした仲間とともに、卒業の喜びを分かち合いましょう。教職員・同窓生も出席します。奮ってご参加下さい。

日時　3月21日(水) 14:00～15:30

参加対象　平成29年度 卒業生・大学院修了生・教職員・同窓会役員・学生自治会役員（参加費無料）

会場　札幌パークホテル 地下2階「パークプラザ」
札幌市中央区南10条西3丁目　TEL 511-3131

交通機関　地下鉄南北線「中島公園」駅下車・3番出口より徒歩すぐ

4年生の皆さんへ「進路調査票」記入のお願い

「進路調査票」は、大学から卒業生に対する調査で卒業後の進路についての最終確認をするものです。必要事項をご記入のうえ、所定の方法で提出するようご協力をお願いします。

記入していただいた情報は、①文部科学省の卒業生の進路調査報告、②キャリア支援センターの各種統計資料の作成、③同窓会活動（会報発送・事業案内）等に使用されるもので、個人情報保護法を遵守しそれ以外に利用することはありません。

提出方法　平成30年3月21日の「卒業証書・学位記授与式」に出席される場合は、証書を受け取る際に提出してください。また、同授与式に出席できない場合は、各学部事務室にて証書を受け取る際に提出願います。

平成30年度 健康診断日程表

■豊平校舎〈学部生〉

新1年生		健診日	4月6日(金)
	1部	経済	9:30～10:30
	1部	経営	10:30～11:30
	1部	法	13:00～14:00
	1部	人文・工	14:00～15:30
	2部	全学部	17:00～19:00

①受診票の受取り・記入：16番教室
※資料の配布時間は、ガイダンス日程表にて確認してください
（4月6日に、他の資料と一緒に受診票が配布されます）

検査項目	②身体計測	③内科診察	④胸部X線	尿検査
場所	学園会館2階 大会議室（生協食堂上）	学園会館3階会議室 女性：8番 男性：9～10番	学生玄関前	体育会クラブ員のみ 5月実施

受け方：①受診票の受取り・記入（16番教室）→②～④の順番に検査を受ける（受診票は最後に回収）

学年・健診日		学部	時間	検査・会場
新2年生 4月5日(木)	1部	経済・経営	13:00～15:30	①受診票の受取り・記入（14番教室）→②身体計測（会館大会議室―生協食堂上）→③内科診察（会館会議室―大会議室上）
	1部	法・人文	9:30～11:30	
	2部	全学部	17:00～19:00	
新3年生 4月4日(水)	1部	経済・経営	13:00～15:30	
	1部	法・人文	9:30～11:30	
	2部	全学部	17:00～19:00	
新4年生・研究生 4月2日(月)	1部	経済・経営	13:00～15:30	①身体・視力測定（会館大会議室―生協食堂上）→②内科診察（会館会議室―大会議室上）→③尿検査容器提出・胸部X線（学生玄関前）
	1部	法・人文	9:30～11:30	
		※受診票・尿検査容器の事前受取日時（法）3月28日(水)10:30～12:00 医務室前（経済・経営・人文）3月29日(木)10:30～12:15 学生玄関ホール		
	2部	全学部	17:00～19:00	
		※受診票・尿検査容器の事前受取日時（全学部）3月28日(水)17:00～20:30 医務室		

■豊平校舎〈大学院生〉

学年・健診日	時間	検査・会場
新1年生 4月6日(金)	9:30～11:30 13:00～15:30 17:00～19:00	①受診票の受取り・記入（16番教室）（受診票の受取り時間）9:10～11:00、12:00～15:00、16:45～19:00 →②身体計測（学園会館2階大会議室―生協食堂上） →③内科診察（学園会館3階会議室―女性：8番、男性：9～10番） →④胸部X線（学生玄関前）
新2年生以上 4月2日(月)	9:30～11:30 13:00～15:30 17:00～19:00	①身体計測（会館大会議室）※視力は最終学年のみ →②内科診察（会館会議室―大会議室上） →③尿容器提出・胸部X線（学生玄関前）※最終学年のみ
		※受診票・尿検査容器の事前受取日時 3月29日(木)10:30～12:15 学生玄関ホール

■山鼻校舎〈工学部生・研究生・大学院生〉

健診日　4月4日(水)

学年＼検査場所		胸部X線	内科診察	身体計測	尿検査
		2号館1階玄関前	学部生・院女子：31番教室 院男子：32番教室	32番教室	4年生は最後に受付で回収
工学部	新2年生		男子／9:00～10:30　女子／10:30～11:00		体育会系クラブ員のみ
工学部	新3年生		男子／11:00～12:30　女子／12:30～13:00		
工学部	新4年生 研究生		男子／14:00～15:30　女子／15:30～16:00 ※視力検査があります（眼鏡・コンタクト使用の方は忘れず持参）		
大学院	修/新1・2年生	男子／14:00～15:30　女子／15:30～16:00			新2年生は尿検査あり（2号館1階玄関前回収）

※健康診断の詳細は掲示等でご確認ください。

平成30年度 行事日程

月	日（曜日）	行事	月	日（曜日）	行事
平成30年 4	2(月)	健康診断（豊4年）	10	6(土)～8(月)	第67回十月祭 第47回工学祭
	3(火)	入学式			
	4(水)	新入生ガイダンス 健康診断（豊3年・工）	11	25(日)	特別入試（公募・指定校推薦、社会人Ⅰ期、課題小論文、海外帰国生徒、外国人留学生）
	5(木)	新入生ガイダンス 健康診断（豊2年）	12	25(火)	振替月曜日授業
	6(金)	新入生ガイダンス 健康診断（豊1年）		26(水)	振替土曜日授業
				27(木)	冬季休業開始
	7(土)	第1学期授業開始	平成31年	8(火)	冬季休業終了
5	16(水)	学園創立記念日	1	9(水)	第2学期授業再開 振替月曜日授業
6	22(金)～24(日)	第64回対東北学院大学定期戦（仙台）		17(木)	予備日
				24(木)	予備日
	24(日)	第1回オープンキャンパス		28(月)	第2学期授業終了
7	24(火)	予備日		29(火)～2/5(火)	第2学期定期試験
	27(金)	実験生物に感謝する日			
	28(土)	予備日	2	8(金)	入学試験準備日
	30(月)	第1学期授業終了		9(土)～12(火)	入学試験
	31(火)～8/7(火)	第1学期定期試験			
				20(水)～23(土)	第2学期追再試験
8	8(水)～9(木)	第2回オープンキャンパス	3	2(土)	社会人Ⅱ期入試
	8(水)	夏季休業開始		11(月)	卒業生発表
	13(月)～16(木)	全学休業（事務取扱休止）		12(火)	進級生発表
9	1(土)～5(水)	第1学期追再試験		21(木)	卒業証書・学位記授与式（卒業祝賀会）
	18(火)	9月期卒業生発表		27(水)	在学生ガイダンス〔2年〕（平成31年度）各課程ガイダンス（平成31年度）
	19(水)	夏季休業終了			
	20(木)	第2学期授業開始		28(木)	在学生ガイダンス〔3年〕（平成31年度）各課程ガイダンス（平成31年度）
	29(土)	9月期卒業証書・学位記授与式 2部（夜間部）オープンキャンパス			
				29(金)	在学生ガイダンス〔4年〕（平成31年度）各課程ガイダンス（平成31年度）
	30(日)	第3回オープンキャンパス			
10	6(土)	ホームカミングデー		30(土)	各課程ガイダンス（平成31年度）

＊（豊）…経済学部・経営学部・法学部・人文学部・工学部〔1年次〕、（工）…工学部〔2年次以上〕
＊本学学生は、行事日程に関する詳細を掲示板や資料等で確認してください。
＊大学院は、各研究科の行事日程によります。